

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス
清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ
一 現務ノ結了
二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
三 残余財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除外スルコトヲ得ス
清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス
第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササ

ル財産ニ對シテノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス
清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス
本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
第八十三條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目録若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三章 物

第八十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ

第八十六條 土地及ヒ其定著物ハ之ヲ不動産トス

此他ノ物ハ總テ之ヲ動産トス

無記名債權ハ之ヲ動産ト看做ス

第八十七條 物ノ所有者カ其物ノ常用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ以テ之ニ附屬セ

シメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス

從物ハ主物ノ處分ニ隨フ

第八十八條 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス

物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス

第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬ス

法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第四章 法律行為

第一節 總則

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

第九十一條 法律行為ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シテ

ルトキハ其意思ニ從フ

第九十二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行為ノ當事

者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從フ

第二節 意思表示

第九十三條 意思表示ハ表意者カ其真意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲メ其效力ヲ妨ケラ

ルルコトナシ但相手方カ表意者ノ真意ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ其意思表示

ハ無効トス

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十五條 意思表示ハ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失

アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事實ヲ知りタル

トキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得

詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十七條 隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス

表意者カ通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラ

ルコトナシ

第九十八條 意思表示ノ相手方カ之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治産者ナリシトキハ其意思表

示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人カ之ヲ知リタル後ハ此限ニ在ラス

第三節 代理

第九十九條 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ

本人ニ對シテ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス

第一百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ爲シタル意思表示ハ自己ノ爲メニ之ヲ爲

シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ

トキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 意思表示ノ效力カ意思ノ欠缺、詐欺、強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若クハ之ヲ知ラサ

ハ過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ代理人ニ付キ之ヲ定
特定ノ法律行為ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其行為ヲ爲
シタルトキハ本人ハ其自ラ知リタル事情ニ付キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ス其過失ニ因
リテ知ラサリシ事情ニ付キ亦同シ

第二百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス
第二百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行為ノミヲ爲ス權限ヲ有ス

一 保存行為
二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍内ニ於テ其利用又ハ改良ヲ目的トスル
行為

第二百四條 委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキニ非
サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス

第二百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及ヒ監督ニ付キ本人ニ對
シテ其實ニ任ス

代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知リ
テ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其實ニ任セス
第二百六條 法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アリ
タルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ

第二百七條 復代理人ハ其權限内ノ行為ニ付キ本人ヲ代表ス
復代理人ハ本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第二百八條 何人ト雖モ同一ノ法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト

爲ルコトヲ得メ但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラス

第二百九條 第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ
其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行為ニ付キ其實ニ任ス

第三百條 代理人カ其權限外ノ行為ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ
理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三百一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人ノ死亡

二 代理人ノ死亡、禁治產又ハ破產

此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

第三百二條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リ
テ其事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第三百三條 代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本人カ其追認ヲ爲スニ非
サレハ之ニ對シテ其效力ヲ生セス

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス
但相手方カ其事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第三百四條 前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答ス
ヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絕シタ
ルモノト看做ス

第三百五條 代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相手方ニ於テ之ヲ取消ス
コトヲ得但契約ノ當時相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第三百六條 追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ

害スルコトヲ得ス

第百十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得サリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ス
前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セザリシトキハ之ヲ適用セス
第百十八條 單獨行爲ニ付テハ其行爲ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハザリシトキニ限リ前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セザル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四節 無効及取消

第百十九條 無効ノ行爲ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行爲ヲ爲シタルモノト看做ス
第百二十條 取消シ得ヘキ行爲ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消スコトヲ得
妻カ爲シタル行爲ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得

第百二十一條 取消シタル行爲ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能力者ハ其行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ
第百二十二條 取消シ得ヘキ行爲ハ第百二十條ニ掲ケタル者カ之ヲ追認シタルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス
第百二十三條 取消シ得ヘキ行爲ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消又ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
第百二十四條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレハ其効ナシ

禁治產者カ能力ヲ回復シタル後其行爲ヲ了知シタルトキハ其了知シタル後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス
第百二十五條 前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得ヘキ行爲ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 全部又ハ一部ノ履行
- 二 履行ノ請求
- 三 更改
- 四 擔保ノ供與
- 五 取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡
- 六 強制執行

第百二十六條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第五節 條件及ヒ期限

第百二十七條 停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ

當事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
第百二十八條 條件附法律行爲ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行爲ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス
第百二十九條 條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第三百三十條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做スコトヲ得

第三百三十一條 條件カ法律行為ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無効トス

條件ノ不成就カ法律行為ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行為ハ無効トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十二條 不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス不法行為ヲ爲ササルヲ以テ條件トスルモノ亦同シ

第三百三十三條 不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス

不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行為ハ無條件トス

第三百三十四條 停止條件附法律行為ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ルトキハ無効トス

第三百三十五條 法律行為ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行為ノ履行ハ期限ノ到來スルマテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

法律行為ニ終期ヲ附シタルトキハ其法律行為ノ效力ハ期限ノ到來シタル時ニ於テ消滅ス

第三百三十六條 期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス

期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之ガ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第三百三十七條 左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス

一 債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

二 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ

三 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ

第五章 期間

第三百三十八條 期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行為ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第三百三十九條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第三百四十條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十一條 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第三百四十二條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限り期間ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

第三百四十三條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿了日トス

第六章 時効

第一節 總則

第三百四十四條 時効ノ效力ハ其起算日ニ遡ル

第三百四十五條 時効ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十六條 時効ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第三百四十七條 時効ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

一 請求

二 差押、假差押又ハ假處分
三 承認

第四百四十八條 前條ノ時效中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ有ス
第四百四十九條 裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ヲ生セス
第四百五十條 支拂命令ハ權利拘束カ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス
第四百五十一條 和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ一月内ニ
訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス任意出頭ノ場合ニ於テ和解ノ調ハサルトキ亦
同シ

第五百十二條 破産手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルトキハ時效中斷
ノ效力ヲ生セス

第五百十三條 催告ハ六个月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破産手
續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第五百十四條 差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リ
テ取消サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第五百十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲ササルトキハ之
ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第五百十六條 時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權
限アルコトヲ要セス

第五百十七條 中斷シタル時效ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム
裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

第五百十八條 時效ノ期間滿了前六个月内ニ於テ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セザリ

シトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月内ハ之ニ對シテ時效完
成セス

第五百十九條 無能力者カ其財産ヲ管理スル父、母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者
カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六个月内亦同シ

第六十條 相續財産ニ關シテハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタ
ル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

第六十一條 時效ノ期間滿了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時效ヲ中斷スル
コト能ハサルトキハ其妨礙ノ止ミタル時ヨリ二週間内ハ時效完成セス

第二節 取得時效

第六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取
得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動産ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且
過失ナカリシトキハ其不動産ノ所有權ヲ取得ス

第六十三條 所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前
條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス

第六十四條 第六十二條ノ時效ハ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハ
レタルトキハ中斷ス

第六十五條 前條ノ規定ハ第六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節 消滅時效

第六十六條 消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

明治二十九年四月 法律 第八十九號 民法第一編 (第六章時效 總則) 取得時效 消滅時效

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件附權利ノ目的物ヲ占有スル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時効ノ進行スルコトヲ妨ケス但權利者ハ其時効ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求めルコトヲ得

第六十七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

債權又ハ所有權ニ非サル財產權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第六十八條 定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ

定期金ノ債權者ハ時効中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五

年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第七十條 左ニ掲ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勸勞及ヒ調劑ニ關スル債權

二 技師、棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權但此時効ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第七十一條 辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第七十二條 辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第七十三條 左ニ掲ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

二 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三 生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權

第七十四條 左ニ掲ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料

二 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

三 運送賃

四 旅店、料理店、貸席及ヒ娯遊場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戶錢、消費物代價並ニ立替金

五 動産ノ損料

第二編 物權

第一章 總則

第七十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス

第七十六條 物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス

第七十七條 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非

サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十八條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動産ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十九條 同一物ニ付キ所有權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其物又ハ其物權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

所有權以外ノ物權及ヒ之ヲ目的トスル他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場合ニ於テハ前項但書規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ占有權ニハ之ヲ適用セス

第二章 占有權

第一節 占有權ノ取得

第八十條 占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第八十一條 占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第八十二條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス

讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ依リテ占有權ヲ取得ス

第八十四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ爾後第三者ノ爲メニ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命ジ第三者之ヲ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有權ヲ取得ス

第八十五條 權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者カ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サレハ占有ハ其性質ヲ變セス

第八十六條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定ス

前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス

第八十七條 占有者ノ承繼人ハ其選擇ニ從ヒ自己ノ占有ノミヲ主張シ又ハ自己ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコトヲ得

前主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ亦之ヲ承繼ス

第八十八條 占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推定ス

第二節 占有權ノ效力

第八十九條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス

善意ノ占有者カ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタルトキハ其起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト看做ス

第九十條 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ、過失ニ因リテ毀損シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ

前項ノ規定ハ強暴又ハ隱祕ニ因ル占有者ニ之ヲ準用ス

第九十一條 占有物カ占有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意ノ占有者ハ其滅失又ハ毀損ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ賠償ヲ爲ス義務ヲ負フ但所有ノ意思ナキ占有者ハ其善意ナルトキト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者カ拂ヒタル代價ヲ辨償スルニ非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス

第九十五條 他人カ飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意ニシテ且逃失ノ時ヨリ一个月内ニ飼養主ヨリ回復ノ請求ヲ受ケサルトキハ其動物ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第九十六條 占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得但占有者カ果實ヲ取得シタル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス

占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他ノ有益費ニ付テハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限リ回復者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但惡意ノ占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第九十七條 占有者ハ後五條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ得他人ノ爲メニ占有ヲ爲ス者亦同シ

第九十八條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其妨害ノ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九十九條 占有者カ其占有ヲ妨害セララルル虞アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第一百條 占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回復ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

占有回復ノ訴ハ侵奪者ノ特定承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得但其承繼人カ侵奪ノ事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第一百一條 占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其工事著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其工事ノ竣成シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得

占有保全ノ訴ハ妨害ノ危険ノ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

占有回復ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第一百二條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト互ニ相妨グルコトナレ

占有ノ訴ハ本權ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ裁判スルコトヲ得

第三節 占有權ノ消滅

第二百三條 占有權ハ占有者カ占有ノ意思ヲ拋棄シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フニ因リテ消滅ス但占有者カ占有回復ノ訴ヲ提起シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ占有權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人カ代理人ヲ任テ占有ヲ爲サシムル意思ヲ拋棄シタルコト

二 代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲メニ占有物ヲ所持スヘキ意思ヲ表示シタルコト

三 代理人カ占有物ノ所持ヲ失ヒタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

第四節 準占有

第二百五條 本章ノ規定ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財產權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三章 所有權

第一節 所有權ノ限界

第二百六條 所有者ハ法令ノ制限內ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七條 土地ノ所有權ハ法令ノ制限內ニ於テ其土地ノ上下ニ及フ

第二百八條 數人ニテ一棟ノ建物ヲ區分シ各其一部ヲ所有スルトキハ建物及ヒ其附屬物ノ共用部分ハ其共有ニ屬スルモノト推定ス

共用部分ノ修繕費其他ノ負擔ハ各自ノ所有部分ノ價格ニ應シテ之ヲ分ツ

立入ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其價金ヲ請求スルコトヲ得
第二百十條 或土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ公路ニ通セサルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ圍繞地ヲ通行スルコトヲ得
池沼、河運若クハ海洋ニ由ルニ非サレハ他ニ通スルコト能ハス又ハ崖岸アリテ土地ト公路ト著シキ高低ヲ爲ストキ亦同シ

第二百一十一條 前條ノ場合ニ於テ通行ノ場所及ヒ方法ハ通行權ヲ有スル者ノ爲メニ必要ニシテ且圍繞地ノ爲メニ損害最モ少キモノヲ選フコトヲ要ス
通行權ヲ有スル者ハ必要アルトキハ通路ヲ開設スルコトヲ得
第二百一十二條 通行權ヲ有スル者ハ通行地ノ損害ニ對シテ價金ヲ拂フコトヲ要ス但通路開設ノ爲メニ生シタル損害ニ對スルモノヲ除外一年毎ニ其價金ヲ拂フコトヲ得

第二百一十三條 分割ニ因リ公路ニ通セサル土地ヲ生シタルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者ノ所有地ノミヲ通行スルコトヲ得此場合ニ於テハ價金ヲ拂フコトヲ要セス
前項ノ規定ハ土地ノ所有者カ其土地ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百一十四條 土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨クルコトヲ得ス
第二百一十五條 水流カ事變ニ因リ低地ニ於テ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ自費ヲ以テ其疏通ニ必要ナル工事ヲ爲スコトヲ得

第二百一十六條 甲地ニ於テ貯水、排水又ハ引水ノ爲メニ設ケタル工作物ノ破潰又ハ阻塞ニ因リテ乙地ニ損害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ修繕若クハ疏通ヲ爲サシメ又必要アルトキハ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得
第二百一十七條 前二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付キ別段ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百一十八條 土地ノ所有者ハ直チニ雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムヘキ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百一十九條 溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス
兩岸ノ土地カ水流地ノ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得但下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ
第二百二十條 高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但低地ノ爲メニ損害最モ少キ場所及ヒ方法ヲ選フコトヲ要ス

第二百二十一條 土地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ通過セシムル爲メ高地又ハ低地ノ所有者カ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十二條 水流地ノ所有者ハ堰ヲ設クル需要アルトキハ其堰ヲ對岸ニ附著セシムルコトヲ得但之ニ因リテ生シタル損害ニ對シテ價金ヲ拂フコトヲ要ス
對岸ノ所有者ハ水流地ノ一部カ其所有ニ屬スルトキハ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ規定ニ從ヒ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十三條 土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ疆界ヲ標示スヘキ物ヲ設クルコトヲ得

第二百二十四條 界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス但測量ノ費用ハ其土地

ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第二百二十五條 二棟ノ建物カ其所有者ヲ異ニシ且其間ニ空地アルトキハ各所有者ハ他ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ其疆界ニ圍障ヲ設クルコトヲ得

當事者ノ協議調ハサルトキハ前項ノ圍障ハ板屏又ハ竹垣ニシテ高サ六尺タルコトヲ要ス

第二百二十六條 圍障ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

第二百二十七條 相隣者ノ一人ハ第二百二十五條第二項ニ定メタル材料ヨリ良好ナルモノヲ用井又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ設クルコトヲ得但之ニ因リテ生スル費用ノ増額ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百二十八條 前三條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十九條 疆界線上ニ設ケタル界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百三十條 一棟ノ建物ノ部分ヲ成ス疆界線上ノ牆壁ニハ前條ノ規定ヲ適用セス

高サノ不同ナル二棟ノ建物ヲ隔ツル牆壁ノ低キ建物ヲ踰ル部分亦同シ但防火牆壁ハ此限ニ在ラス

第二百三十一條 相隣者ノ一人ハ共有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁カ此工事ニ耐ヘサルトキハ自費ヲ以テ工作ヲ加ヘ又ハ其牆壁ヲ改築スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ牆壁ノ高サヲ増シタル部分ハ其工事ヲ爲シタル者ノ專有ニ屬ス

第二百三十二條 前條ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其價金ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十三條 隣地ノ竹木ノ枝カ疆界線ヲ踰ルトキハ其竹木ノ所有者ヲシテ其枝ヲ剪除セシムルコトヲ得

隣地ノ竹木ノ根カ疆界線ヲ踰ルトキハ之ヲ截取スルコトヲ得

第二百三十四條 建物ヲ築造スルニハ疆界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違ヒテ建築ヲ爲サントスル者アルトキハ隣地ノ所有者ハ其建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其建築ノ竣成シタル後ハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條 疆界線ヨリ三尺未滿ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ椽側ヲ設クル者ハ目隠ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ窓又ハ椽側ノ最モ隣地ニ近キ點ヨリ直角線ニテ疆界線ニ至ルマテヲ測算ス

第二百三十六條 前二條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百三十七條 井戸、用水溜下水溜又ハ肥料溜ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ六尺以上池、地窖又ハ厠坑ヲ穿ツニハ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

水樋ヲ埋メ又ハ溝渠ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ其深サノ半以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但三尺ヲ踰ルコトヲ要セス

第二百三十八條 疆界線ノ近傍ニ於テ前條ノ工事ヲ爲ストキハ土砂ノ崩壞又ハ水若クハ汚液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 所有權ノ取得

第二百三十九條 無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス

無主ノ不動産ハ國庫ノ所有ニ屬ス

第二百四十條 遺失物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス

第二百四十一條 埋藏物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後六個月內ニ其所有者ノ知レサルトキハ發見者其所有權ヲ取得ス但他人ノ物ノ中ニ於テ發見シタル埋藏物ハ發見者及ヒ其物ノ所有者折半シテ其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條 不動産ノ所有者ハ其不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物ノ所有權ヲ取得ス但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ケス

第二百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數個ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サレハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條 附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成物ヲ共有ス

第二百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條 他人ノ動産ニ工作ヲ加ヘタル者アルトキハ其加工物ノ所有權ハ材料ノ所有者ニ屬ス但工作ニ因リテ生シタル價格カ著シク材料ノ價格ニ超ユルトキハ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

加工者カ材料ノ一部ヲ供シタルトキハ其價格ニ工作ニ因リテ生シタル價格ヲ加ヘタルモノカ他人ノ材料ノ價格ニ超ユルトキニ限リ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

第二百四十七條 前五條ノ規定ニ依リテ物ノ所有權ガ消滅シタルトキハ其物ノ上ニ存セル他ノ權利モ亦消滅ス

右ノ物ノ所有者カ合成物、混和物又ハ加工物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ前項ノ權利ハ爾後合成物、混和物又ハ加工物ノ上ニ存シ其共有者ト爲リタルトキハ其持分ノ上ニ存ス

第二百四十八條 前六條ノ規定ニ適用ニ因リテ損失ヲ受ケタル者ハ第七百三條及ヒ第七百四條ノ規定ニ從ヒ償金ヲ請求スルコトヲ得

第三節 共有

第二百四十九條 各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

第二百五十條 各共有者ノ持分ハ相均シキモノト推定ス

第二百五十一條 各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ共有物ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百五十二條 共有物ノ管理ニ關スル事項ハ前條ノ場合ヲ除ク外各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但保存行爲ハ各共有者之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 各共有者ハ其持分ニ應シ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任ス

共有者カ一年内ニ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ他ノ共有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第二百五十四條 共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有者ニ對シテ有スル債權ハ其特定承繼人ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得

第二百五十五條 共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬ス

第二百五十六條 各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期間内分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百五十七條 前條ノ規定ハ第二百八條及ヒ第二百二十九條ニ掲ケタル共有物ニハ之ヲ適用セス

第二百五十八條 分割ハ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ分割ニ因リテ著シク其價格ヲ損スル虞アルトキハ裁判所ハ其競賣ヲ命スルコトヲ得

第二百五十九條 共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルトキハ分割ニ際

シ債權者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得
債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債權者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十條 共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ヒ各共有者ノ債權者ハ自己ノ費用ヲ以テ分割ニ參加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ參加ノ請求アリタルニ拘ハラズ其參加ヲ待タズシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百六十一條 各共有者ハ他ノ共有者カ分割ニ因リテ得タル物ニ付キ賣主ト同シク其持分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第二百六十二條 分割カ結了シタルトキハ各分割者ハ其受ケタル物ニ關スル證書ヲ保存スルコトヲ要ス

共有者一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタル物ニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者之ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ分割者ノ協議ヲ以テ證書ノ保存者ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應シテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ要ス

第二百六十三條 共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本節ノ規定ヲ適用ス

第二百六十四條 本節ノ規定ハ數人ニテ所有權以外ノ財產權ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス但法令ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四章 地上權

第二百六十五條 地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル

權利ヲ有ス

第二百六十六條 地上權者カ土地ノ所有者ニ定期ノ地代ヲ拂フヘキトキハ第二百七十四條乃至第二百七十六條ノ規定ヲ準用ス

此他地代ニ付テハ貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百六十七條 第二百九條乃至第二百三十八條ノ規定ハ地上權者間又ハ地上權者ト土地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用ス但第二百二十九條ノ推定ハ地上權設定後ニ爲シタル工事ニ付テノミ之ヲ地上權者ニ準用ス

第二百六十八條 設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於テ別段ノ慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得但地代ヲ拂フヘキトキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラサル一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ拋棄セサルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍内ニ於テ工作物又ハ竹木ノ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム

第二百六十九條 地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ヲ原狀ニ復シテ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五章 永小作權

第二百七十條 永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七十一條 永小作人ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百七十二條 永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜

畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス
第二百七十三條 永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ定メタルモノノ外賃貸
借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十四條 永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除
又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百七十五條 永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料
ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第二百七十六條 永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
ハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百七十八條 永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以
テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス
設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外
之ヲ二十年トス

第二百七十九條 第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用ス

第六章 地役權
第二百八十條 地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益
ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ要ス

第二百八十一條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他
ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス
第二百八十二條 土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地
役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但
地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十三條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限り時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十四條 共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取
得ス

共有者ニ對スル時効中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生
セス

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時効停止ノ原因アルモ時効ハ各共
有者ノ爲メニ進行ス

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキ
ハ其各地ノ需要ニ應シ先ツ之ヲ家用ニ供シ其殘餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行爲ニ別段
ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者ハ前ノ地役權者ノ水ノ
使用ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百八十六條 設定行爲又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲
メニ工作物ヲ設テ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承
繼人モ亦之ヲ負擔ス

第二百八十七條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者

ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得

第二百八十八條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應ジテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百八十九條 承役地ノ占有者カ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

第二百九十條 前條ノ消滅時効ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス

第二百九十一條 第六十七條第二項ニ規定セル消滅時効ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百九十二條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時効ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第二百九十三條 地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサルトキハ其部分ノ時効ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

第七章 留置權

第二百九十五條 他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但し其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ占有カ不法行為ニ因リテ始マラザル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得

前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第二百九十八條 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ質貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但し其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十九條 留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但し裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケス

第三百一條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但し第三百九十八條第二項ノ規定ニ依リ質貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第八章 先取特權

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財產ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二百九十九條 留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但し裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケス

第三百一條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但し第三百九十八條第二項ノ規定ニ依リ質貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財產ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四條 先取特權ハ其目的物ノ賣却、質貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス
債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ
第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第二節 先取特權ノ種類

第一款 一般ノ先取特權

第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 共益ノ費用

二 葬式ノ費用

三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財産ノ保存、清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス
前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラサリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス
前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

第三百九條 雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六個月間ノ給料ニ付キ存在ス
但其金額ハ五十圓ヲ限トス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六個月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 不動産ノ質貸借

二 旅店ノ宿泊

三 旅客又ハ荷物ノ運輸

四 公吏ノ職務上ノ過失

五 動産ノ保存

六 動産ノ賣買

七 種苗又ハ肥料ノ供給

八 農工業ノ勞役

第三百十二條 不動産質貸ノ先取特權ハ其不動産ノ借賃其他質貸借關係ヨリ生シタル質借人ノ債務ニ付キ質借人ノ動産ノ上ニ存在ス

第三百十三條 土地ノ質借人ノ先取特權ハ質借地又ハ其利用ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ質借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス
建物ノ質借人ノ先取特權ハ質借人カ其建物ニ備附ケタル動産ノ上ニ存在ス

第三百十四條 質借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ質借人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百十五條 質借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ質借人ノ先取特權ハ前期、當期及ヒ次期ノ

借貸其他ノ債務及以前期並ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス
第三百二十六條 貸貸人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百二十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客、其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス
第三百二十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百二十九條 第九十二條乃至第九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス
第三百三十條 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百三十一條 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

第三百三十二條 動産買買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
第三百三十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用非タル後一年內ニ之ヲ用非タル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス
第三百三十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三個月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス
第三款 不動產ノ先取特權

第三百二十五條 左ニ掲ゲタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定不動產ノ上ニ先取特權ヲ有ス
一 不動產ノ保存
二 不動產ノ工事
三 不動產ノ賣買

第三百二十六條 不動產保存ノ先取特權ハ不動產ノ保存費ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス
第三百二十七條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條 不動產工事ノ先取特權ハ工匠、技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動產ニ關シテ爲シタル工事ノ費用ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動產ノ増價カ現存スル場合ニ限り其増價額ニ付テノミ存在ス

第三百二十九條 不動產買買ノ先取特權ハ不動產ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス
第三節 先取特權ノ順位

第三百三十條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ
一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

第三百三十一條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ
第一 不動產賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權
第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ

同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一ノ順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第四節 先取特權ノ效力

第三百二十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百二十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的ヲササルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス
一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

ヲ得ス

前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的ヲササル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモノ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百二十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス
工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

第九章 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス
第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行為又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス
第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百四條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節 動產質

第三百五十二條 動產質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三條 動產質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四條 動產質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人

ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス
第三百五十五條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動產ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

第三節 不動產質

第三百五十六條 不動產質權者ハ質權ノ目的タル不動產ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 不動產質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動產ノ負擔ニ任ス

第三百五十八條 不動產質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行為ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第三百六十條 不動產質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動產質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス

不動產質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四節 權利質

第三百六十二條 質權ハ財產權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス

第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其

他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限り之ヲ取立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス 債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十章 抵押權

第一節 總則

第三百六十九條 抵押權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス 地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵押權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス

第三百七十條 抵押權ハ抵押地ノ上ニ存スル建物ヲ除外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フ但設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵押不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年內ニ抵押不動産ノ差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用ス

第三百七十二條 第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵押權ニ之ヲ準用ス

第二節 抵押權ノ效力

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ不動産ニ付キ抵押權ヲ設定シタルトキハ其抵押權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第三百七十四條 抵押權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其滿期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其抵押權ヲ行フコトヲ得但其以前ノ定期金ニ付テモ滿期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百七十五條 抵押權者ハ其抵押權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵押權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵押權者カ數人ノ爲メニ其抵押權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ抵押權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵押權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵押權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

主たる債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百七十七條 抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

第二百七十八條 抵當不動産ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得

第二百七十九條 主たる債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何時ニテモ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一个月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非サレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二百八十三條 第三取得者カ抵當權ヲ滌除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵當不動産ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵當不動産ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ掲グルコトヲ要セス

三 債權者カ一个月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ掲ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

第二百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月内ニ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ら其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二百八十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債務者及ヒ抵當不動産ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第二百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得ス

第二百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキハ抵當不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

第二百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第二百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト

共ニ之ヲ競買スルコトヲ得但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得
第三百九十條 第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得

第三百九十一條 第三取得者カ抵押不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第九十
六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵押權ヲ有スル場合ニ於
テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ

或不動産ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵押權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコ
トヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵押權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵押權者カ他ノ不動産
ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿シルマテ之ニ代位シテ抵押權ヲ行フコトヲ得

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵押權ヲ行フ者ハ其抵押權ノ登記ニ其代位ヲ附
記スルコトヲ得

第三百九十四條 抵押權者ハ抵押不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ
財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵押不動産ノ代價ニ先チテ他ノ財産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但
他ノ各債權者ハ抵押權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ
供託ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸借ハ抵押權ノ登記後ニ登記シタルモ
ノト雖モ之ヲ以テ抵押權者ニ對抗スルコトヲ得但其貸借カ抵押權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁
判所ハ抵押權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三百九十六條 抵押權ノ消滅
抵押權ハ債務者及ヒ抵押權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ

時効ニ因リテ消滅セス

第三百九十七條 債務者又ハ抵押權設定者ニ非サル者カ抵押不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條
件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵押權ハ之ニ因リテ消滅ス

第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵押ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵押
權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第三百九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ
注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行為ノ性質又ハ當
事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付
スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行為ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其
給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トス

第四百二條 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲ス
コトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス

債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨
ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

第四百五條 利息カ一年以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス

第五百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二節 債權ノ效力
第四百十三條 債務ノ履行ニ付キ定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百十四條 債權者カ債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百十五條 債權者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリ

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百十九條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十一條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十二條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十三條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十四條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十五條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十六條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十七條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十八條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百二十九條 債權者カ其債務ノ履行ヲ受ケタル時ヨリ延滞ノ責ニ任ス

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス

賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス
違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス

第四百二十六條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但共一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ共一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百二十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 不可分債務カ可分債務ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責ニ任ス

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行為ノ無效又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ未償債權ヲ有ス

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

第四款 保證債務

第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條 保證債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其債務ニ從タルモノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノミ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

一 能力者タルコト

二 辨濟ノ資力ヲ有スルコト

三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト

保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百五十一條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラズ債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條 主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百二十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十九條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場

合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

- 一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキ
- 二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス
- 三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受ケル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ未償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務者カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非シテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十六條 債權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條 債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレ

ハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ真偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効トス

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十六條 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限り其效力ヲ有ス

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第四百八十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十二條 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百八十三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五條 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還

ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八條 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百八十九條 當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當ス

一 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先

ニ 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス

三 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス

第四百九十條 一個ノ債務ノ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十一條 債務者カ一個又ハ數個ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用、利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百九十二條 辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レンシム

第四百九十三條 辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

第四百九十四條 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百一條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一 保證人ハ豫メ先取特權、不動産質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス

三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五 保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保證人ノ負擔部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財産ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財産カ不動産ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス

第五百二條 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百三條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

第二款 相殺

第五百五條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條 時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 債務カ不法行為ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

トヲ得ス

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第二債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

條件附債務ヲ無條件債務トシ、無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ

第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第四款 免除

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得

第五百二十四條 承諾ノ期間ヲ定メシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セザリシモノト看做ス

第五百二十八條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絶ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條 前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス

第五百三十一條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限り其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メザリシトキハ廣告者之ヲ判定ス

應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

數人ノ行爲カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二款 契約ノ效力

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辦濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ債權者ハ條件成就ノ場合ニ於テ其選擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ

債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス
債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給
付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償
還スルコトヲ要ス

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルト
キハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示
シタル時ニ發生ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之
ヲ消滅セシムルコトヲ得ス
第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辯ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益
ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第三款 契約ノ解除
第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手
方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行
ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ
爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲
サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲

スコトヲ得
第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキ
ハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對
シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス
第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セ
シムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當
ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ
解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行為又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ
若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ
物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス
契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行為又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除
權ハ消滅セス

第二節 贈與
第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手

方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節 買賣

第一款 總則

第五百五十五條 買賣ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十六條 買賣ノ一方ノ豫約ハ相手方カ買賣ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ買賣ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ買賣ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第五百五十八條 買賣契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十九條 本節ノ規定ハ買賣以外ノ有價契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 買賣ノ效力

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ買賣ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 買賣ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタル時ヨリ惡意ナリ

シトキハ契約ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權永小作權地役權留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル質貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ買主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テ又ハ債權者カ之ヲ知リテ競買ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケザリシ事實及ヒ自ら第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條 未ダ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應シテ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ハルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但買主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ買主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得
第三款 買戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ買賣契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其買買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十一條 買賣契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ賃借借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動産ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十三條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得

買主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ賣主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣アリタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セシメテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競賣人ト爲リタルトキハ買主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ所有權ヲ取得ス

他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競賣人ト爲リタルトキハ買主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財産權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ買賣ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當

事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知りテ之ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用貸借

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出ダシタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 質貸借

第一款 總則

第六百一條 質貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其質金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ質貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其質貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ質貸借ハ十年

二 其他ノ土地ノ質貸借ハ五年

三 建物ノ質貸借ハ三年

四 動産ノ質貸借ハ六個月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間満了前土地ニ付テハ一年内建物ニ付テハ三個月内動産ニ付テハ一個月内ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 質貸借ノ存続期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ質貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二款 質貸借ノ效力

第六百五條 不動産ノ質貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第六百六條 質貸人ハ質貨物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ

質貸人カ質貨物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ質借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百七條 質貸人カ質借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ質借人カ質借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ質借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 質借人カ質貨物ニ付キ質貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出シタルトキハ質貸人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

質借人カ有益費ヲ出シタルトキハ質貸人ハ質貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ質貸人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ質借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ質貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ質借人カ不可抗力ニ因リ引續キ一年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 質借物ノ一部カ質借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルトキハ質借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ質借人カ質借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ質借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 質借人ハ質貸人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ質借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

質借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ質借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ質貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 質借人カ適法ニ質借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ質貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ質貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ質貸人カ質借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十四條 借賃ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 質借物カ修繕ヲ要シ又ハ質借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ質借人ハ遲滞ナク之ヲ質貸人ニ通知スルコトヲ要ス但質貸人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ質貸借ニ之ヲ準用ス

第三款 質貸借ノ終了

第六百十七條 當事者カ質貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

スコトヲ得此場合ニ於テハ貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

- 一 土地ニ付テハ一年
- 二 建物ニ付テハ三ヶ月
- 三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條 當事者カ貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條 貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃借人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ貸借ニ之ヲ準用ス

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六ヶ月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ己ムコトヲ得サレ事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルト

キハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間満了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得
前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル

ルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス
第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス
第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコト

ヲ得ス

第十節 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

第六百四十七條 受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要スメニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行為ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託
第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ

因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七百七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ

寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又辭任セラレルコトナシ

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラサリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員カ組合財產ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財產ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脫退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脫退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産
- 四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脫退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脫退ノ當時ニ於ケル組合財產ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脫退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

脫退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財產ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己ノ相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス
管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理

ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百二條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百三條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出シタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス
管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキ

ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行為

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財產權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償

ノ責ニ任ス共同行為者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ
教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行為者ト看做ス

第七百二十條 他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得ステ
加害行為ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行為ヲ爲シタル者ニ對スル損
害賠償ノ請求ヲ妨ケス
前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用
ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス
第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス
被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ
代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得
第七百二十四條 不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者
ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經
過シタルトキ亦同シ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計検査院法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月一日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

法律第九十號 (官報 五月二日)

明治二十二年法律第十五號會計検査院法第二條中検査官補「二十四員」ヲ「三十二員」ニ改ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計検査官退官ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月一日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

法律第九十一號 (官報 五月二日)

第一條 會計検査官身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ退
官ヲ命スルコトヲ得

第二條 退官ハ會計検査官會議ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス

第三條 會計検査官會議ハ會計検査院長ヲ以テ議長トス院長ニ對スル退官ノ申立アルトキハ會計
検査院部長中上席者ヲ以テ議長トス

議長事故アルトキハ會計検査院部長中上席者之ヲ代理ス

第四條 會計検査官會議ハ現員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

會計検査官會議ノ決議ハ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第五條 會計検査院部長及検査官ニ對スル退官申立ハ會計検査院長之ヲ爲シ院長ニ對シテハ部長
 合議ノ上之ヲ爲ス
 第六條 會計検査官第一條ニ依リ退官ヲ命セラレタルトキハ官吏恩給法ニ於テ同法第二條ニ掲ク
 ル事項ニ該リタル者ト同視ス

〔參照〕

法律第四十三號官吏恩給法(明治二十三年六月二十一日官報)抄録
 第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス
 一 年齢六十歳ヲ超テ退官ヲ許シタルトキ
 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘズ退官ヲ許シタルトキ
 三 廢官廢職若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣ニ會計検査院支廳ヲ設置スルノ法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治二十九年五月一日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文

法律第九十二號(官報 五月二日)

第一條 臺灣地方所在官廳ノ歳入歳出及官有物ニ關スル計算ヲ検査スル爲メ會計検査院ニ一部ヲ
 増設シ之ヲ臺灣ニ置キ會計検査院臺灣支廳ト稱ス
 第二條 會計検査院ニ部長一員検査官三員書記官一員検査官補五員及屬若干員ヲ増置シ臺灣支廳
 ノ職員ニ充ツ

第三條 部長ハ検査上必要ナリト認ムルトキハ所屬官吏ヲ派遣シテ實地検査ヲ爲スコトヲ得
 第四條 此ノ法律ニ規定セサル事項ハ總テ會計検査院法ニ依ル

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道鐵道敷設法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十三日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
 陸軍大臣 侯爵 大山 巖
 大藏大臣 子爵 渡邊 國武
 遞信大臣 白根 專一
 拓殖務大臣 子爵 高島 綱之助

法律第九十三號(官報 五月十四日)

北海道鐵道敷設法

第一條 政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス
 第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ
 一 石狩國旭川ヨリ十勝國十勝太及釧路國厚岸ヲ經テ北見國網走ニ至ル鐵道
 一 十勝國利別ヨリ北見國相ノ内ニ釧路國厚岸ヨリ根室國根室ニ至ル鐵道
 一 石狩國旭川ヨリ北見國宗谷ニ至ル鐵道
 一 石狩國雨龍原野ヨリ天鹽國増毛ニ至ル鐵道
 一 天鹽國奈與呂ヨリ北見國網走ニ至ル鐵道
 一 後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道

第三條 北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ敷區ニ分チ每區ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第七條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百万圓ヲ限リ明治三十年度ヨリ工事ノ緩急ト財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集ス

第八條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第九條 明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第十四條第十五條ハ本法ニ適用ス

〔參照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄錄

第十條 政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

第十四條 豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス

一 鐵道工事著手ノ順序

一 第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其ノ都度募集スヘキ公債金額

○ 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法典ノ施行延期ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二十八日

- 內閣總理大臣兼 大藏大臣 伯耆松方正義
- 海軍大臣 臣侯爵西鄉從道
- 外務大臣 臣伯爵大隈重信
- 農商務大臣 臣子爵榎本武揚
- 拓殖務大臣兼 陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
- 內務大臣 臣伯爵樺山資紀
- 遞信大臣 臣子爵野村靖
- 司法大臣 臣清浦奎吾
- 文部大臣 臣侯爵峰須賀茂韶

法律第九十四號(官報 十二月二十九日)

明治二十三年法律第三十二號商法總則第一編第一章乃至第五章第七章乃至第十一章第二編同年法律第九十七號法例、同年法律第九十八號民法財產取得編、人事編及ヒ其施行ニ必要ナル法律ハ明治二十一年六月三十日マテ之ヲ施行セス但商法第一編第二章及ヒ第四章ハ商事會社ニ付テハ從前ノ通之ヲ施行ス

法令全書

豫算

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年一月十九日(官報一月二十日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歳入歳出追加額ヲ各六千圓ト定ム其款項ノ金額ハ別册歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別册)

- 第六款 歳入臨時部
前年度繰入金 金六千圓
- 第一款 歳出臨時部
前年度繰入金 金六千圓
- 司法省所管
- 第一款 營繕費 金六千圓
- 第三款 火災新營費 金六千圓

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加並明治二十八年年度各特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月一日(官報二月三日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

第一條 明治二十八年年度歳入追加額ヲ參拾七萬七千五百五拾九圓九拾四錢七厘歳出追加額ヲ百貳拾九萬六千參百四拾參圓九拾五錢七厘ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入豫算歳出豫算ニ據ルベシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其ノ規畫スル所ニ隨ヒ明治二十八年年度以降ノ繼續費ト爲ス

(別冊)

甲號

歳入臨時部

第五款 獻納金

金貳萬八千九百圓

第一項 大阪工業學校創立費獻納金

金貳萬八千九百圓

第六款 前年度繰入金

金參拾四萬八千六百五拾九圓九拾四錢七厘

第一項 前年度繰入金

金參拾四萬八千六百五拾九圓九拾四錢七厘

歳入臨時部合計金參拾七萬七千五百五拾九圓九拾四錢七厘

歳出經常部

外務省所管

- 第二款 在外公館
 - 第一項 俸給及諸給 金四萬參千九百四拾參圓參錢
 - 第二項 廳費 金貳萬五千七百九圓七拾錢
 - 第三項 修繕費 金六千六百參拾九圓
 - 第四項 裁判及囚徒費 金千五百九拾六圓
 - 第五項 朝鮮國居留地取締費 金百四拾四圓五拾錢
 - 第九項 旅費 金四千六百圓八錢
 - 第十項 雜給及雜費 金參千四拾圓
 - 第十一項 電信料 金貳拾六圓貳拾五錢
 - 第十八項 地所家屋借料 金八拾七圓五拾錢
 - 大藏省所管 金貳千百圓
- 第三款 恩賞諸祿
 - 第三項 軍人恩給 金六萬九千八百九拾貳圓參拾六錢五厘
- 第十五款 諸拂辰及缺損補填金
 - 第一項 諸拂辰金 金七萬八千拾五圓
 - 第二項 缺損補填金 金七萬參千九百八拾七圓
 - 第十七款 臺灣事務局
 - 第一項 俸給及諸給 金八千六百拾四圓貳拾四錢九厘
 - 第二項 廳費 金貳千七百七拾四圓九拾九錢七厘
 - 第三項 修繕費 金貳千九拾四圓七拾參錢貳厘

第四項 旅費

第五項 雜給及雜費

大藏省所管合計金拾五萬六千五百貳拾壹圓六拾壹錢四厘

海軍省所管

第二款 軍事費

- 第一項 俸給及諸給 金四拾參萬七千八百八拾圓六錢壹厘
 - 第二項 諸手當 金貳拾參萬六千七百五拾九圓八拾錢貳厘
 - 第五項 糧食費 金五千八百五拾六圓
 - 第六項 被服費 金五萬八千四百九拾九圓七拾八錢六厘
 - 第七項 兵器彈藥及水雷費 金貳千參百四拾四圓六拾錢
 - 第八項 造船及修理費 金四萬五千百拾四圓貳拾貳錢
 - 第十一項 廳費 金參萬九千九百參拾六圓
 - 第十三項 艦營費 金五千九拾六圓貳拾八錢
 - 第十六項 扶助金 金參萬九千九百六拾九圓四拾貳錢
 - 第二十項 旅費 金壹萬七千七百四拾貳圓參錢參厘
 - 遞信省所管 金千八百六拾壹圓九拾貳錢
- 第二款 遞信費
- 第六項 遞信事業費 金貳拾六萬六千六百六拾貳圓拾壹錢五厘
 - 第八項 諸拂辰金 金五萬九千九百六圓五拾參錢五厘
- 歲出經常部合計金八拾九萬八千參百六圓八拾貳錢
- 歲出臨時部

外務省所管

- 第一款 營繕費 金參千四百七拾九圓五拾參錢八厘
- 第二款 修繕費 金參千四百七拾九圓五拾參錢八厘
- 第一款 臨時備附品費 金拾八萬千圓

外務省所管合計金拾八萬四千四百七拾九圓五拾參錢八厘

內務省所管

- 第四款 府縣 金貳千四百參拾四圓九拾八錢
- 第三款 災害地修築工事監督出張旅費 金貳千四百參拾四圓九拾八錢
- 第六款 諸官衙及議院建築費 金壹萬九千五百圓
- 第九項 建築費 金壹萬九千五百圓

- 第四項 營繕費 金參萬五千六百參拾貳圓五拾四錢七厘
- 第四項 長崎外國人居留地網座松枝兩川澗深及河岸改修費 金參萬五千六百參拾貳圓五拾四錢七厘

內務省所管合計金五萬七千五百六拾七圓五拾貳錢七厘

- 第七款 特別給與金 金六千八拾圓五拾五錢貳厘
- 第一款 特別給與金 金六千八拾圓五拾五錢貳厘
- 第八款 償金取扱費 金貳萬貳千參百七圓四拾錢
- 第一款 償金取扱費 金貳萬貳千參百七圓四拾錢

- 第九款 臨時軍事費會計檢查費 金貳千四百貳拾貳圓四拾參錢五厘
- 第一款 俸給及諸給 金貳千百圓

- 第二項 廳費 金八拾七圓參錢五厘
- 第三項 雜給及雜費 金貳百參拾五圓四拾錢

大藏省所管合計金參萬八百拾圓參拾八錢七厘

- 第三款 營繕費 金參萬九千九百貳拾八圓六拾七錢五厘
- 第五項 新營費 金參萬九千九百貳拾八圓六拾七錢五厘
- 海軍省所管 金五千六百六拾八圓壹錢
- 第三款 營繕費 金五千六百六拾八圓壹錢

- 第三項 吳鎮守府管內風災修繕費 金五千六百六拾八圓壹錢
- 文部省所管 金參千貳百五拾圓
- 第一款 營繕費 金參千貳百五拾圓

- 第四款 大阪工業學校創立費 金五萬七千八百圓
- 第一款 新營費 金五萬七千八百圓

- 第二項 機械器具新調費 金貳萬九千圓
- 文部省所管合計金六萬千五百拾圓
- 農商務省所管 金貳萬八千八百圓

- 第五款 營繕費 金壹萬八千五百參拾參圓
- 第一款 新營費 金壹萬八千五百參拾參圓

歲出臨時部合計金參拾九萬八千參拾七圓拾參錢七厘

歲出總計金百貳拾九萬六千參百四拾參圓九拾五錢七厘

(別冊)
乙號

第一

大阪工業學校創立費

總額

金九萬七千五百拾貳圓

金六萬八千參百五拾貳圓

年額

明治二十八年

金五萬七千八百圓

金貳萬九千圓

金貳萬八千八百圓

明治二十九年

金參萬九千參百五拾貳圓

金參萬九千參百五拾貳圓

款 大阪工業學校創立費

項 新 營 費

項 機械器具新調費

款 大阪工業學校創立費

項 新 營 費

項 機械器具新調費

款 大阪工業學校創立費

項 新 營 費

項 機械器具新調費

各特別會計豫算
明治二十八年度大藏省所管造幣局陸軍省所管東京砲兵工廠文部省所管帝國大學、第一高等學校、東京工業學校遞信省所管官設鐵道各歲入歲出豫算追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

大藏省所管
造幣局

歲入

第一款 造幣局作業收入

金貳萬五千八百圓

第一項 作業收入

金貳萬五千八百圓

歲出

第一款 造幣局作業費

金壹萬四千五百八拾九圓九拾八錢

第七項 雜給及雜費

金壹萬四千五百八拾九圓九拾八錢

陸軍省所管

東京砲兵工廠

歲入

第一款 東京砲兵工廠作業收入

金六拾七萬九百四拾九圓

第一項 作業收入

金六拾七萬九百四拾九圓

歲出

第一款 東京砲兵工廠作業費

金六拾七萬九百四拾九圓

第三項 雜給及雜費

金參拾壹萬六千參拾貳圓

第五項 材料素品購買費

金參拾五萬四千九百拾七圓

文部省所管

帝國大學

歲出

臨時部

第一款 新營費

金千九百五十拾圓

第二款 帝國大學植物園植物溫室增築費

金千九百五十拾圓

第一高等學校

歲入

第一款 第一高等學校

金六百六拾四圓

第二款 諸收入

金六百六拾四圓

歲出

經常部

第一款 第一高等學校

金六百六拾四圓

第三款 修繕費

金六百六拾四圓

東京工業學校

歲入

經常部

第二款 實驗製品場收入

金四千八百八拾六圓貳拾四錢五厘

第一款 製品收入

金四千八百八拾六圓貳拾四錢五厘

歲出

經常部

第二款 實驗製品場

金四千八百八拾六圓貳拾四錢五厘

第一項 廳費

金貳千六百貳拾貳圓七拾四錢五厘

第三項 雜給及雜費

金貳千貳百六拾參圓五拾錢

官設鐵道

歲入

第一款 鐵道作業收入

金百四拾八萬七千八百四拾參圓九拾八錢八厘

第一項 運輸收入

金百四拾八萬七千八百四拾參圓九拾八錢八厘

歲出

第一款 鐵道作業費

金九拾五萬百七拾貳圓拾六錢貳厘

第七項 諸拂戻金

金參拾壹萬九千九百四拾五圓七錢五厘

第十項 事業費

金六拾參萬貳百貳拾七圓八錢七厘

御名 御璽

明治二十九年二月一日 (官報二月三日)

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歲入歲出追加額ヲ各拾壹萬貳千拾七圓參拾參錢ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

第六款 前年度繰入金	金拾壹萬貳千七圓參拾參錢
第一款 前年度繰入金	金拾壹萬貳千七圓參拾參錢
歲出經常部	
外務省所管	
第一款 外務本省	金壹萬參千五百圓
第八項 電信料	金壹萬參千五百圓
第二款 在外公館	金五萬參千貳百六圓
第一項 俸給及諸給	金壹萬五千六百五拾五圓
第二項 傭費	金五千七百貳拾圓
第三項 修繕費	金千六百參拾圓
第四項 裁判及囚徒費	金貳百圓
第七項 既約備外國人諸給	金八百八拾壹圓
第八項 既約地所家屋借料	金參千六百八拾八圓
第十項 雜給及雜費	金貳千八百八拾四圓
第十一項 電信料	金貳萬千四百六拾七圓
第十二項 宴會費	金千貳百九拾九圓
第十八項 地所家屋借料	金四百八拾貳圓
外務省所管合計金六萬六千七百六圓	
逓信省所管	

第二款 逓信費

第六項 逓信事業費	金四萬五千參百拾壹圓參拾參錢
歲出經常部合計金拾壹萬貳千七圓參拾參錢	

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月一日 (官報二月三日)

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加額ヲ各六拾四萬貳百圓トス其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳入臨時部	
第六款 前年度繰入金	金六拾四萬貳百圓
第一款 前年度繰入金	金六拾四萬貳百圓
歳出臨時部	
內務省所管	
第二款 土木費補助	金六拾四萬貳百圓
第五項 福井縣水害費補助	金四拾參萬六千五百圓
第六項 富山縣水害費補助	金貳拾萬參千七百圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月八日(官報二月十日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歳入歳出追加額ヲ各六萬圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳入臨時部

第六款 前年度繰入金

金六萬圓

第一款 前年度繰入金

金六萬圓

歳出臨時部

農商務省所管

第六款 獸疫費

金六萬圓

第一款 獸疫費

金六萬圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年二月八日(官報二月十日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歳入歳出追加額ヲ各拾五萬八百七拾四圓七拾貳錢五厘ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳入臨時部

第六款 前年度繰入金

金拾五萬八百七拾四圓七拾貳錢五厘

第一款 前年度繰入金

金拾五萬八百七拾四圓七拾貳錢五厘

歳出臨時部

内務省所管

第一款 補助費

金拾五萬八百七拾四圓七拾貳錢五厘

第三項 北海道炭礦鐵道會社補助

金拾五萬八百七拾四圓七拾貳錢五厘

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十八年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月四日(官報 三月五日)

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

豫算

明治二十八年年度歳入歳出追加額ヲ各壹萬參千七拾貳圓四拾貳錢ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳入臨時部

第六款 前年度繰入金

金壹萬參千七拾貳圓四拾貳錢

第一項 前年度繰入金

金壹萬參千七拾貳圓四拾貳錢

歳出臨時部

外務省所管

第三款 戴冠式臨場費

金壹萬參千七拾貳圓四拾貳錢

第一項 戴冠式臨場費

金壹萬參千七拾貳圓四拾貳錢

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月四日 (官報 三月五日)

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏 大臣 子爵渡邊國武

豫算
明治二十九年年度歳入歳出追加額ヲ各九萬五千八百貳拾圓四拾五錢ト定ム共ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳入臨時部

第九款 前年度繰入金

金九萬五千八百貳拾圓四拾五錢

第一款 前年度繰入金

金九萬五千八百貳拾圓四拾五錢

歳出臨時部

外務省所管

第三款 戴冠式臨場費

金九萬五千八百貳拾圓四拾五錢

第一款 戴冠式臨場費

金九萬五千八百貳拾圓四拾五錢

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年年度歳入歳出總豫算並明治二十九年年度各特別會計歳入歳出豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年三月十三日 (官報 三月十四日)

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏 大臣 子爵渡邊國武

豫算

第二條 明治二十九年年度ノ歳入總額ヲ壹億參千七百九拾八萬貳千六百七拾七圓四拾八錢八厘歳出

總額ヲ壹億五千貳百拾八萬七千貳百八拾八圓九拾五錢參厘ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入豫算歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ明治二十九年年度以降ノ繼續費ト爲シ若ハ既定ノ年割額ヲ改定ス

第三條 明治二十九年年度歳出豫算中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度未支出殘額ヲ翌明治三十年年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第四條 明治二十九年年度ニ於テ發行スル大藏省證券ノ最高額ハ貳千五百萬圓ト定ム

(別冊)

甲號

歳入經常部

第一款 租稅

金七千參百七拾九萬貳千八百九拾圓九拾八錢

第一項 地租

金參千八百五拾參萬六千九百參拾貳圓七拾六錢壹厘

第二項 所得稅

金百四拾參萬四千貳百五拾八圓九拾錢七厘

第三項 酒造稅

金千八百四拾萬七千八百六拾七圓七拾貳錢貳厘

第四項 酒精營業稅

金七千七拾九圓七拾參錢參厘

第五項 醫藥營業稅

金參萬貳千拾圓

第六項 烟草稅

金貳百九拾五萬參百貳拾七圓貳拾六錢貳厘

第七項 證券印稅

金八拾六萬貳千六圓貳拾四錢五厘

第八項	醬油稅	金百四拾壹萬貳千九百六圓拾八錢參厘
第九項	菓子稅	金六拾參萬五千參圓貳拾壹錢
第十項	沖繩縣酒類出港稅	金壹萬八千四百六拾六圓四拾五錢貳厘
第十一項	取引所稅	金五拾八萬八千四百拾七圓拾錢參厘
第十二項	國立銀行稅	金貳拾壹萬七千六百五拾圓拾六錢
第十三項	賣藥稅	金七拾壹萬五千七百九拾四圓四拾八錢八厘
第十四項	船稅	金貳拾七萬貳千八百五拾五圓九拾四錢八厘
第十五項	車稅	金七拾九萬九千七百九拾八圓
第十六項	礦業稅	金貳拾四萬千貳百六拾五圓五拾九錢九厘
第十七項	北海道水產稅	金參拾萬四千六百拾五圓參拾錢八厘
第十八項	牛馬買賣免許稅	金七萬四千參百九圓
第十九項	狩獵免許稅	金拾貳萬七百參拾九圓
第二十項	海關稅	金六百拾六萬八百五拾七圓八拾九錢九厘
第二款	免許及手數料	金貳百參拾八萬百六拾八圓八拾參錢
第一款	印紙料	金貳百參拾七萬五千五百四拾貳圓七拾五錢四厘
第三款	諸免許及手數料	金四千六百貳拾六圓七錢六厘
第一項	官報收入	金千六百貳拾貳萬四千五百參拾圓九拾參錢七厘
第二項	稅關雜收入	金拾八萬六千五百六拾五圓參錢七厘
第三項	北海道廳種畜場收入	金拾五萬八千五百拾壹圓貳拾七錢
第四項	森林收入	金九百九拾壹圓七拾貳錢六厘
		金八拾九萬六千參百拾八圓參拾八錢壹厘

第五項	郵便電信收入	金千九萬貳千七百九拾壹圓七拾四錢壹厘
第六項	囚徒工錢及製作收入	金貳拾萬九千百參拾八圓四拾錢六厘
第七項	血清及痘苗拂下代	金五萬圓
第八項	藥用阿片拂下代	金壹萬五千參百四拾圓四拾錢
第九項	官有物貸下料	金貳拾萬貳千六百參圓四拾貳錢參厘
第十項	度量衡原器拂下代	金五百八拾壹圓九厘
第十一項	造幣局益金	金貳拾六萬五千九百八拾九圓八拾七錢六厘
第十二項	印刷局益金	金拾貳萬五千八百貳拾七圓九拾五錢四厘
第十三項	千住製絨所益金	金千六百四拾五圓貳拾四錢貳厘
第十四項	鐵道益金	金四百貳萬參千六百四圓
第十五項	電信燈臺用品製造所益金	金貳千貳百八拾貳圓四拾七錢貳厘
第四款	雜收入	金七拾壹萬六千七百七拾六圓七拾七錢六厘
第一項	懲罰及沒收金	金貳拾六萬四千四百拾六圓五拾四錢參厘
第二項	辨償金	金七萬參千貳百七拾八圓八錢四厘
第三項	雜入	金貳拾五萬千貳百四拾貳圓九拾七錢貳厘
第四項	官吏遺族扶助法納金	金拾萬六千八百七拾六圓貳拾錢參厘
第五項	學校長正教員退職及遺族扶助料法納金	金壹萬五千五百四拾七圓參拾錢四厘
第六項	沖繩縣地方收入	金壹萬千貳百拾壹圓拾貳錢八厘
第七項	小笠原島地方收入	金六百九拾四圓五拾四錢貳厘
第五款	預金利息繰入	金百貳拾萬五千五百六拾六圓
第一項	預金利息繰入	金百貳拾萬五千五百六拾六圓

歲入經常部合計金九千四百參拾壹萬五千參百參拾參圓五拾貳錢參厘
歲入臨時部

- 第一款 獻納金
 - 第一項 大阪工業學校創立費獻納金 金壹萬九千六百七拾六圓
 - 第二項 官有物拂下代 金五拾七萬七千九百七拾參圓參拾錢五厘
 - 第一項 鑛山拂下代 金貳拾五萬參千九百貳拾八圓
 - 第二項 地所拂下代 金四萬四千六百六拾圓貳拾錢六厘
 - 第三項 建物拂下代 金九千五百五拾六圓參拾錢四厘
 - 第四項 物品拂下代 金貳拾貳萬貳千九百參拾四圓七拾七錢八厘
 - 第五項 家畜拂下代 金壹萬八千五百拾四圓拾壹錢七厘
 - 第六項 礦內炭山所屬物件及礦內部春別鐵道拂下代 金貳萬八千七百七拾九圓九拾錢
- 第二款 雜收入
 - 第一項 海軍受托造船修船收入 金貳拾參萬八千五百五拾五圓拾六錢貳厘
 - 第二項 返納金 金拾壹萬四千貳百五拾七圓四拾錢六厘
 - 第四款 公債證券製造及發行費收入 金壹萬五千圓
 - 第五款 整理公債證券製造及發行費收入 金壹萬五千圓
 - 第五款 中央備荒儲蓄金繰入 金拾六萬九百圓
 - 第六款 製鐵費補足金 金百八拾壹萬貳千貳百五拾圓八拾貳錢貳厘
 - 第一項 御下付金 金參拾萬圓
 - 第二項 納付金 金百五拾壹萬貳千貳百五拾圓八拾貳錢貳厘

第七款 威海衛守備費償却金

第八款 償金繰入

- 第一項 威海衛守備費償却金 金七拾五萬圓
- 第一項 償金繰入 金七拾五萬圓
- 第一項 償金繰入 金四千九萬參千參百八拾八圓六拾七錢六厘
- 歲入臨時部合計金四千參百六拾六萬七千參百四拾參圓九拾六錢五厘
- 歲入總計金壹億參千七百九拾八萬貳千六百七拾七圓四拾八錢八厘

歲出經常部

- 第一款 皇室費 金參百萬圓
- 第一款 皇室費 金參百萬圓
- 外務省所管
 - 第一款 外務本省 金九萬九千六百四拾參圓九拾壹錢八厘
 - 第一項 俸給及諸給 金六萬貳千七百拾五圓
 - 第二項 應費 金八千七百貳拾五圓九拾錢五厘
 - 第三項 修繕費 金參千拾四圓七拾參錢八厘
 - 第四項 死傷手當 金拾圓
 - 第五項 賠償及訴訟費 金拾圓
 - 第六項 既約備外國人諸給 金七千貳百圓
 - 第七項 旅費 金千貳百六拾八圓
 - 第八項 雜給及雜費 金九千四圓九拾九錢
 - 第九項 電信料 金五千九拾五圓貳拾八錢五厘

第十項 宴會費

金貳千五百圓

第二款 在外公館

金九拾壹萬千參百參圓參拾四錢四厘

第一項 俸給及諸給

金五拾六萬千參百參拾六圓五拾參錢壹厘

第二項 廳費

金五萬參千參百九拾壹圓壹錢壹厘

第三項 修繕費

金壹萬五百七拾貳圓六拾五錢七厘

第四項 裁判及囚徒費

金貳千參百五拾貳圓八拾貳錢五厘

第五項 朝鮮國居留地取締費

金參萬五千八拾圓五拾壹錢四厘

第六項 清國居留人取締費

金九千四百八拾圓

第七項 賠償及訴訟費

金拾圓

第八項 既約備外國人諸給

金壹萬八千八百九拾八圓五拾六錢

第九項 既約地所家屋借料

金四萬四千五百五拾圓六拾七錢

第十項 旅費

金四萬七千參百八拾貳圓四拾七錢壹厘

第十一項 雜給及雜費

金貳萬六千七百八拾圓九拾貳錢九厘

第十二項 電信料

金六千六百拾六圓貳拾貳錢壹厘

第十三項 宴會費

金壹萬七千五百四圓

第十四項 在外國難民貸與金

金六拾七圓貳拾六錢七厘

第十五項 墓地管理費

金貳百四圓貳拾四錢七厘

第十六項 外國留學生費

金參千參百參拾貳圓

第十七項 機密費

金八萬圓

第十八項 備外國人諸給

金五百貳拾八圓

第十九項 地所家屋借料

金壹萬參千四百拾五圓四拾四錢壹厘

外務省所管合計金百壹萬九百四拾七圓貳拾六錢貳厘

內務省所管

第一款 神宮費

金貳萬七千百拾參圓

第二款 神社費及國幣社例祭幣帛料

金貳萬七千百拾參圓

第一項 神社費

金拾七萬九千六百七拾圓五拾錢

第二項 國幣社例祭幣帛料

金拾七萬七千九百七拾五圓五拾錢

第三款 內務本省

金千六百九拾五圓

第一項 俸給及諸給

金貳拾八萬六千貳百五拾九圓參錢八厘

第二項 廳費

金拾貳萬九千九百拾四圓

第三項 修繕費

金貳萬貳千四拾九圓八拾參錢六厘

第四項 死傷手當

金參千六百拾參圓四拾錢

第五項 賠償及訴訟費

金百參拾八圓

第六項 旅費

金八圓

第七項 雜給及雜費

金貳萬八拾五圓八拾五錢

第八項 醫術及藥劑師試驗費

金參萬貳千參百七拾壹圓參拾四錢貳厘

第九項 阿片費

金壹萬五千貳百七拾八圓六拾壹錢

第十項 古社寺保存費

金壹萬貳千參百圓

第十一項 備外國人諸給

金五萬圓

第四款 衛生試驗所

金五百圓

第一項 俸給及諸給

金貳萬四千七百七拾圓拾六錢九厘

第一項 俸給及諸給

金壹萬五千貳百八拾圓

第三項	廳費	金四千七百八拾圓參拾六錢五厘
第四項	修繕費	金六百參拾七圓六拾六錢貳厘
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金參千參百四拾貳圓拾四錢貳厘
第八項	印紙製造費	金四百貳拾壹圓
第五款 血清製造所		
第一項	俸給及諸給	金貳萬千八百八拾四圓七拾錢
第二項	廳費	金五千五百貳拾五圓
第三項	修繕費	金千四百五拾六圓
第四項	死傷手當	金四百九拾貳圓
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金參百圓
第八項	調製諸費	金參千四百四拾壹圓七拾錢
第六款 痘苗製造所		
第一項	俸給及諸給	金五萬九千五百七圓參拾貳錢
第二項	廳費	金八千四百貳拾五圓
第三項	修繕費	金八千七拾九圓七拾貳錢
第四項	死傷手當	金四百圓

第五項	賠償及訴訟費	金貳圓
第六項	旅費	金六百圓
第七項	雜給及雜費	金參千九百七拾參圓六拾錢
第八項	調製諸費	金參萬八千貳拾六圓
第七款 土木監督署		
第一項	俸給及諸給	金八萬九千四百七圓五拾錢
第二項	廳費	金四萬九千九百拾貳圓
第三項	修繕費	金參千九百參拾圓
第四項	死傷手當	金六百八拾七圓
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	既約備外國人諸給	金百九拾壹圓
第七項	旅費	金六千圓
第八項	雜給及雜費	金貳萬千八百八拾圓
第九項	測量費	金六千四百九拾壹圓五拾錢
第八款 集治監		
第一項	俸給及諸給	金九拾貳萬五千百參拾六圓六拾五錢壹厘
第二項	廳費	金五萬四千九百四拾九圓
第三項	修繕費	金壹萬九千四百七拾壹圓六拾七錢六厘
第四項	死傷手當	金壹萬六百五拾七圓參拾錢
第五項	囚徒諸費	金參圓
第六項	在府縣獄囚徒費	金五拾參萬七千四百七拾壹圓八拾四錢貳厘
第六項	在府縣獄囚徒費	金壹萬千七拾七圓

第七項	賠償及訴訟費	金四圓
第八項	旅費	金貳萬參千八百五圓八錢六厘
第九項	雜給及雜費	金貳拾六萬七千六百九拾七圓七拾四錢七厘
第九款	警視廳	金貳拾五萬四千七百壹圓參拾八錢九厘
第一項	俸給及諸給	金拾六萬五千四百九拾參圓
第二項	廳費	金壹萬五千百參拾八圓八拾壹錢五厘
第三項	修繕費	金參千九拾七圓
第四項	褒賞費	金拾四圓
第五項	東京府下外國人居留地取締費	金四千四百四拾四圓貳拾四錢
第六項	死傷手當	金四圓
第七項	賠償及訴訟費	金六拾八圓
第八項	旅費	金四千八百九拾壹圓
第九項	雜給及雜費	金五萬貳千八百五拾壹圓參拾參錢四厘
第十項	機密費	金九千圓
第十款	伊豆七島地方警察費	金參千貳百四圓拾貳錢
第一項	死傷手當	金壹圓
第二項	廳費	金五拾壹圓
第三項	修繕費	金貳拾壹圓
第四項	旅費	金千四百四拾六圓七拾參錢
第五項	雜給及雜費	金千九百八拾四圓參拾九錢
第十一款	北海道本廳	金百壹萬八千貳拾貳圓貳拾四錢五厘

第一項	俸給及諸給	金拾七萬貳千八百貳拾五圓
第二項	廳費	金六萬五千五拾四圓拾八錢六厘
第三項	修繕費	金壹萬千八百七拾四圓拾五錢九厘
第四項	褒賞費	金四百九拾八圓
第五項	外國人居留地營繕費	金百貳拾壹圓
第六項	死傷手當	金九拾壹圓
第七項	徵兵費	金千六拾九圓拾五錢五厘
第八項	恩賜及救助費	金千貳百貳拾圓
第九項	難破船費	金六百貳拾九圓拾七錢八厘
第十項	滯納處分費	金五百四拾七圓貳拾參錢
第十一項	刑事被告人犯罪人護送及留置諸費	金壹萬七千四拾九圓
第十二項	在監人諸費	金四萬千參百貳拾貳圓六拾錢六厘
第十三項	賠償及訴訟費	金九百五拾六圓
第十四項	旅費	金五萬八百七拾壹圓八拾六錢
第十五項	雜給及雜費	金拾九萬五千七百拾六圓八拾四錢八厘
第十六項	海員取扱費	金百六拾貳圓四拾錢八厘
第十七項	北海道事業費	金貳拾貳萬九千四百五拾七圓拾七錢
第十八項	獄署諸費	金參萬貳千七百八圓五拾七錢九厘
第十九項	土木費	金拾萬參千六百六拾參圓八拾七錢六厘
第二十項	衛生費	金壹萬貳百九拾五圓四拾參錢
第二十二項	教育費	金四萬百拾七圓貳拾壹錢四厘

第二十二項	救育費	金五千五百七圓
第二十三項	勸業費	金七千四百八拾六圓參拾五錢九厘
第二十四項	補助費	金貳萬六千參百參拾四圓九拾八錢七厘
第二十五項	函館消毒所及避病院保存費	金六百圓
第二十六項	機密費	金六千參百四拾四圓
第十二款	府縣	金四百六拾八萬參千參百貳拾九圓九拾四錢四厘
第一項	俸給及諸給	金貳百參拾萬千參百參拾貳圓
第二項	廳費	金拾八萬九千五百拾七圓七拾八錢壹厘
第三項	褒賞費	金壹萬五千拾五圓
第四項	外國人居留地取締及管轄費	金拾四萬貳千七百六拾九圓七拾貳錢九厘
第五項	橫濱公園保存費	金九百五拾圓
第六項	橫濱爆彈發物倉庫修繕費	金貳千四拾五圓
第七項	長崎外國人墓地諸費	金參百拾壹圓五厘
第八項	死傷手當	金八百參拾八圓
第九項	徵兵費	金拾四萬千參百九拾參圓五拾八錢壹厘
第十項	恩賜及救助費	金拾五萬七千貳百七圓
第十一項	難破船費	金千參百五拾圓九拾九錢九厘
第十二項	小笠原島及伊豆七島裁判費	金百六拾圓五拾錢
第十三項	賠償及訴訟費	金壹萬貳千貳百八拾貳圓
第十四項	既約備外國人諸給	金五千七百六拾圓
第十五項	警察費連帶支辨金	金九拾六萬四千六百參拾六圓

第十六項	旅費	金四拾六萬四千六百六拾九圓六拾錢
第十七項	雜給及雜費	金拾九萬五千七百九拾六圓九拾八錢參厘
第十八項	消毒所及避病院保存費	金四千九百九圓貳拾壹錢五厘
第十九項	營繕土木費	金貳萬六千六百參拾五圓五拾五錢壹厘
第二十項	機密費	金五萬七千貳百五拾圓
第十三款	小笠原島地方費	金九千四百四拾八圓五拾五錢
第一項	死傷手當	金壹圓
第二項	修繕費	金五百八拾五圓
第三項	警察費	金貳千六百四拾五圓拾五錢
第四項	獄署諸費	金貳百六拾貳圓四拾錢
第五項	在監人諸費	金百參拾圓
第六項	難破船費	金貳拾七圓
第七項	土木費	金千貳百七拾壹圓
第八項	教育費	金九百參拾貳圓
第九項	勸業費	金參千貳百九拾五圓
第十項	豫備米費	金參百圓
第十四款	沖繩縣地方費	金拾六萬四千參百八拾壹圓參拾六錢參厘
第一項	死傷手當	金壹圓
第二項	修繕費	金千參百七拾五圓七拾錢
第三項	警察費	金參萬八千九百五拾九圓貳拾五錢四厘
第四項	獄署諸費	金壹萬千參拾貳圓五拾壹錢五厘

第五項	在監人諸費	金壹萬貳百貳拾圓八厘
第六項	難破船費	金壹圓
第七項	土木費	金六千七百七拾六圓參拾八錢
第八項	衛生及病院費	金壹萬四千參百九拾貳圓五錢
第九項	教育費	金貳萬九千九百九拾圓七拾四錢四厘
第十項	勸業費	金參千七百六拾六圓
第十一項	役所及役場費	金貳萬五百四拾圓四拾錢六厘
第十二項	地役人諸給	金參萬四千貳百六拾六圓參拾錢六厘
第十三項	教育費	金九圓
第十四項	諸達書及揭示諸費	金千五百五拾壹圓
第十五款	對馬地方警察費	金八千百參拾貳圓貳拾貳錢壹厘
第一項	死傷手當	金參拾五圓
第二項	廳費	金八百拾五圓六錢六厘
第三項	旅費	金八百四拾貳圓四拾六錢五厘
第四項	雜給及雜費	金六千六百參拾九圓六拾九錢
第十六款	大島地方警察費	金七千貳百八拾六圓八拾六錢參厘
第一項	死傷手當	金壹圓
第二項	廳費	金參百九拾四圓參拾參錢參厘
第三項	旅費	金九百貳拾九圓拾五錢
第四項	雜給及雜費	金五千九百六拾貳圓參拾八錢
內務省所管合計金七百七拾六萬五千五百五拾五圓五拾七錢參厘		

大藏省所管		
第一款 大藏本省		
第一項	俸給及諸給	金貳拾四萬八千貳百參拾九圓六拾五錢八厘
第二項	廳費	金拾五萬參千參百八拾參圓五拾錢
第三項	修繕費	金貳萬千拾八圓六拾八錢壹厘
第四項	萬國關稅表刊行同盟費	金參千六百拾圓九拾五錢參厘
第五項	死傷手當	金五百五拾壹圓
第六項	公債及銀行紙幣費	金貳千百參拾貳圓參拾六錢四厘
第七項	賠償及訴訟費	金千四百六拾圓
第八項	旅費	金壹萬參千貳百四拾七圓
第九項	雜給及雜費	金四萬參千八百五拾七圓參拾四錢
第十項	仕拂命令及保管金引 出切符用紙製造費	金八千九百七拾六圓八拾貳錢
第二款 國債		
第一項	公債元利及手數料	金貳千七百七拾七萬六千九百四拾七圓九拾壹錢六厘
第二項	預金利子	金貳千七百七拾七萬六千九百四拾七圓九拾壹錢六厘
第三項	補助紙幣銷却	金百貳拾萬五千五百六拾六圓
第三款 恩賞諸祿		
第一項	賞勳年金	金參百參拾六萬九拾貳圓四拾貳錢五厘
第二項	文官恩給	金百六萬五千五百四拾八圓
第三項	軍人恩給	金七拾貳萬四千五百四拾四圓七拾七錢六厘
第四項	學校職員恩給	金百參拾八萬六千五百拾貳圓八拾貳錢
第四款 學校職員恩給		
第一項	學校職員恩給	金貳萬貳千貳百六拾四圓參拾八錢四厘

第五項	沖繩縣諸祿	金拾四萬七千七百九拾九圓九拾四錢五厘
第六項	既定外國人恩給	金壹萬貳千參百五拾圓
第七項	外國人恩給	金千五百六拾貳圓五拾錢
第四款 內閣		
第一項	俸給及諸給	金拾六萬九千四百參拾四圓貳拾七錢五厘
第二項	廳費	金九萬貳千五百七拾五圓
第三項	修繕費	金九千四百貳拾壹圓
第四項	褒賞費	金貳千貳百九拾七圓七拾錢
第五項	死傷手当	金壹萬八千貳百六拾六圓
第六項	旅費	金拾七圓
第七項	雜給及雜費	金八百八拾九圓六拾錢
第八項	機密費	金壹萬五千九百六拾七圓九拾七錢五厘
第五款 樞密院		
第一項	俸給及諸給	金拾萬參千八百四圓貳拾參錢
第二項	廳費	金九萬五千貳百參拾四圓
第三項	修繕費	金貳千七百貳拾圓
第四項	旅費	金千百拾六圓九拾錢
第五項	雜給及雜費	金五百九拾貳圓八拾錢
第六款 貴族院		
第一項	議員諸費	金四千百四拾圓五拾參錢
第二項	俸給及諸給	金貳拾四萬貳千參百八拾參圓壹錢
		金拾八萬參千七拾參圓五拾壹錢
		金壹萬九千五拾貳圓五拾錢

第三項	廳費	金壹萬五千百參拾貳圓
第四項	修繕費	金貳千貳百四拾壹圓
第五項	旅費	金百五拾圓
第六項	雜給及雜費	金貳萬貳千七百參拾四圓
第七款 衆議院		
第一項	議員諸費	金貳拾五萬九千參百八拾參圓七拾四錢
第二項	俸給及諸給	金壹萬八千六百貳拾七圓五拾錢
第三項	廳費	金壹萬四千五百四拾八圓
第四項	修繕費	金貳千貳百四拾壹圓
第五項	旅費	金五拾圓
第六項	雜給及雜費	金貳萬五千五百五拾八圓
第八款 會計検査院		
第一項	俸給及諸給	金拾貳萬五千九百四拾圓
第二項	廳費	金拾壹萬七百貳拾九圓
第三項	修繕費	金參千參百七拾六圓
第四項	旅費	金七百七拾五圓
第五項	雜給及雜費	金參千五百圓
第九款 行政裁判所		
第一項	俸給及諸給	金七千五百六拾圓
第二項	廳費	金參萬九千八百四拾七圓六拾七錢
第三項	修繕費	金參萬四千九百八拾八圓
		金千五百六拾六圓
		金四百四拾五圓

第四項 旅費	金參百七拾壹圓
第五項 雜給及雜費	金貳千四百七拾七圓六拾七錢
第十款 臺灣事務局	金貳萬六千六百八拾五圓五拾壹錢
第一項 俸給及諸給	金八千七百圓
第二項 廳費	金七千五百九拾壹圓八拾六錢
第三項 修繕費	金千貳百圓
第四項 旅費	金參千九拾貳圓拾八錢
第五項 雜給及雜費	金六千四百壹圓四拾七錢
第十一款 官報局	金拾八萬八千六百參拾圓貳拾錢
第一項 俸給及諸給	金壹萬貳千六拾貳圓
第二項 廳費	金貳千九百五拾五圓
第三項 修繕費	金貳百六拾六圓四拾錢
第四項 旅費	金百參拾六圓八拾錢
第五項 雜給及雜費	金六千四百六拾六圓八拾八錢
第六項 刊行費	金拾六萬六千七百四拾參圓拾貳錢
第十二款 稅關	金貳拾壹萬貳千四百壹圓
第一項 俸給及諸給	金拾萬八千七拾七圓
第二項 廳費	金壹萬七千九百四拾四圓
第三項 修繕費	金壹萬八千六拾八圓
第四項 從價稅品買上代	金貳百拾圓
第五項 死傷手當	金八圓

第六項 賠償及訴訟費	金參百參拾貳圓
第七項 旅費	金四千四百五拾壹圓
第八項 雜給及雜費	金六萬參千貳拾九圓
第九項 密輸出入申告者給與	金百八拾貳圓
第十三款 內國稅徵收費	金百七拾參萬六千八百參拾六圓五厘
第一項 俸給及諸給	金八拾壹萬四千八百七拾九圓五拾錢
第二項 廳費	金拾貳萬參千參拾參圓九拾八錢貳厘
第三項 修繕費	金八百八拾九圓
第四項 所得稅調查費	金參萬八千參百七拾四圓
第五項 市町村交付金	金拾七萬八千七百七拾八圓八拾壹錢壹厘
第六項 滯納及開墾國稅犯則者處分費	金貳萬貳千五百圓
第七項 印紙鑑札類諸費	金拾壹萬五千五百參圓貳拾錢
第八項 賠償及訴訟費	金貳百參圓拾七錢壹厘
第九項 旅費	金貳拾四萬四千參百四拾八圓五拾四錢
第十項 雜給及雜費	金拾九萬五千五百四拾四圓參拾九錢六厘
第十一項 沖繩縣稅品取扱費	金七千參百八拾壹圓四拾錢五厘
第十四款 文官試驗費	金貳千七百五拾圓拾錢四厘
第一項 廳費	金五百六拾四圓七拾六錢四厘
第二項 修繕費	金五拾圓
第三項 雜給及雜費	金貳千百參拾五圓參拾四錢
第十五款 貨幣取扱費	金四拾萬參千九百七拾參圓貳拾錢九厘

第一項	流通不便貨幣交換費	金參千貳百參拾參圓
第二項	日本銀行交付金	金四拾萬圓
第三項	貨幣類取扱雜費	金七百四拾圓貳拾錢九厘
第十六款	諸拂戻及缺損補填金	金貳拾萬六千九百四拾七圓
第一項	諸拂戻金	金六千五百五拾壹圓
第二項	缺損補填金	金貳百萬圓
第十七款	國庫豫備金	金百萬圓
第一項	第一豫備	金百萬圓
第二項	第二豫備	金百萬圓
大藏省所管合計金參千九百參拾六萬六千四百八拾六圓四拾五錢貳厘		
陸軍省所管		
第一款	陸軍本省	金貳拾參萬參千六拾五圓參拾五錢六厘
第一項	俸給及諸給	金拾五萬千七百七拾五圓
第二項	廳費	金貳萬七千四百六拾參圓七拾錢九厘
第三項	修繕費	金千拾壹圓八拾五錢四厘
第四項	旅費	金壹萬七千五百四拾參圓拾五錢七厘
第五項	雜給及雜費	金壹萬五千九百八拾參圓五拾參錢六厘
第六項	諸手当	金壹萬七千貳拾貳圓
第七項	被服費	金千四百四拾六圓拾錢
第八項	馬匹費	金千四百貳拾圓
第二款	軍事費	金千五百九萬四千貳百壹圓四錢參厘

第一項	俸給及諸給	金五百六萬八千八拾八圓五拾五錢貳厘
第二項	諸手当	金六拾貳萬五千九百參拾參圓貳拾參錢
第三項	外國駐在視察員費	金五萬七千五百五圓八錢貳厘
第四項	糧食費	金貳百六拾參萬五千九百九拾四圓拾壹錢五厘
第五項	被服費	金百八拾四萬四千九拾四圓參拾貳錢八厘
第六項	兵器彈藥費	金百貳拾五萬千六百拾圓拾五錢貳厘
第七項	馬匹費	金百拾參萬九千七百七拾六圓拾四錢
第八項	演習費	金參拾五萬七千五拾貳圓拾壹錢參厘
第九項	忠者費	金拾壹萬九千拾圓四拾壹錢七厘
第十項	廳費	金貳拾九萬七千七百九拾六圓八拾錢貳厘
第十一項	軍隊需品費	金參拾四萬九百貳拾四圓九拾四錢六厘
第十二項	修繕費	金拾九萬四千貳拾參圓八拾七錢
第十三項	死傷手当	金貳千九百拾貳圓貳拾七錢壹厘
第十四項	罷役恤金	金七拾圓
第十五項	囚徒費	金貳萬七千八百貳圓貳錢七厘
第十六項	賠償及訴訟費	金貳百圓
第十七項	旅費	金五拾七萬六千七百五圓九拾七錢八厘
第十八項	雜給及雜費	金四拾六萬貳千七百八拾五圓參拾貳錢五厘
第十九項	兵要地圖費	金壹萬九千六百五拾六圓六拾九錢五厘
第二十項	供奉費	金千貳百拾五圓
第二十一項	機密費	金六萬四千圓

第二十二款 備外國人諸給

- 第三款 憲兵費
 - 第一項 俸給及諸給 金七千參百四拾四圓
 - 第二項 諸手當 金四拾九萬貳千九百九拾六圓貳拾九錢四厘
 - 第三項 被服費 金貳拾八萬四百貳拾壹圓四拾八錢
 - 第四項 兵器彈藥費 金參萬六千五百五圓六拾錢
 - 第五項 馬匹費 金參萬八千六百九拾四圓拾六錢參厘
 - 第六項 廳費 金壹萬八百六圓四拾八錢貳厘
 - 第七項 修繕費 金貳萬六千六百四拾九圓八拾四錢七厘
 - 第八項 死傷手當 金貳萬貳千六百八拾六圓五拾壹錢六厘
 - 第九項 囚徒費 金貳千六百七拾參圓參拾八錢
 - 第十項 賠償及訴訟費 金四拾圓
 - 第十一項 旅費 金千五百四拾圓四拾四錢
 - 第十二項 雜給及雜費 金六圓
 - 第十三項 機密費 金壹萬五千四百參拾圓八厘
 - 第十四項 屯田兵費 金四萬四千四百九拾八圓參拾七錢八厘
- 第四款 屯田兵費
 - 第一項 俸給及諸給 金四拾八萬六千六百四拾參圓七拾七錢壹厘
 - 第二項 諸手當 金拾壹萬四千六百五拾四圓四拾五錢
 - 第三項 糧食費 金壹萬四百七拾四圓五拾貳錢壹厘
 - 第四項 被服費 金貳拾萬五千四百六圓八拾錢九厘
 - 第五項 兵器彈藥費 金參萬貳千五百參圓八拾貳錢五厘
 - 第六項 死傷手當 金壹萬五千六百六拾參圓八拾參錢九厘

- 第六項 馬匹費 金四千參百拾四圓四拾四錢
- 第七項 演習費 金壹萬貳千九百參圓五拾參錢九厘
- 第八項 患者費 金六千七百貳拾貳圓拾七錢貳厘
- 第九項 廳費 金六千九百貳拾七圓四拾九錢貳厘
- 第十項 軍隊需品費 金六千八百九圓四拾八錢六厘
- 第十一項 修繕費 金貳千八百圓
- 第十二項 死傷手當 金五拾圓
- 第十三項 囚徒費 金九百五拾五圓七拾參錢六厘
- 第十四項 賠償及訴訟費 金拾圓
- 第十五項 旅費 金壹萬貳千九百五拾貳圓九拾八錢
- 第十六項 雜給及雜費 金九千九百八拾參圓八拾四錢
- 第十七項 移住費 金四萬四千拾圓六拾四錢貳厘

第五款 靖國神社寄付金

第一項 靖國神社寄付金

陸軍省所管合計金千六百參拾壹萬參千六百五拾六圓四拾六錢四厘

海軍省所管

- 第一款 海軍本省
 - 第一項 俸給及諸給 金拾壹萬八千六百七拾參圓六錢四厘
 - 第二項 廳費 金八萬八千八百九拾圓六拾錢
 - 第三項 修繕費 金壹萬貳千四百四拾六圓五拾九錢八厘
 - 第四項 死傷手當 金七百貳拾圓

第五項 賠償及訴訟費	金貳拾圓
第六項 旅費	金貳千五百七圓五拾壹錢六厘
第七項 雜給及雜費	金壹萬四千七拾八圓參拾五錢
第一款 軍事費	金七百四拾七萬五千六百九拾參圓參拾參錢七厘
第一項 俸給及諸給	金貳百五拾五萬五千參百五拾參圓參拾五錢參厘
第二項 諸手當	金四萬參千八百四拾五圓參拾錢
第三項 外國留學生費	金參萬四千四百參拾圓拾四錢九厘
第四項 既約備外國人諸給	金四千貳百圓
第五項 糧食費	金七拾五萬四千四百拾四圓四拾七錢五厘
第六項 被服費	金參拾萬八百八拾貳錢壹厘
第七項 兵器彈藥及水雷費	金百七拾壹萬九千四百八拾參圓拾八錢貳厘
第八項 造船及修理費	金六拾六萬九千四百五拾八圓四錢
第九項 演習費	金參萬圓
第十項 患者費	金貳萬四百六拾圓壹錢四厘
第十一項 廳費	金拾五萬參千六百六拾四圓參拾參錢貳厘
第十二項 軍港要港費	金七萬貳千參拾壹圓六拾五錢九厘
第十三項 艦營費	金六拾萬九千九百九拾六圓拾貳錢八厘
第十四項 修繕費	金四萬參千八百五拾壹圓貳錢四厘
第十五項 死傷手當	金貳百貳拾四圓
第十六項 扶助金	金九萬六千參百四拾貳圓拾八錢六厘
第十七項 囚徒費	金六千八百七拾七圓參錢壹厘

第十八項 賠償及訴訟費	金百拾四圓貳拾五錢
第十九項 既約地所家屋借料	金參百拾七圓七拾四錢六厘
第二十項 旅費	金拾參萬八千七拾五圓五拾七錢
第二十一項 雜給及雜費	金拾參萬九千九百貳拾參圓八拾參錢五厘
第二十二項 水路費	金五萬八千四百貳拾七圓參拾參錢參厘
第二十三項 機密費	金貳萬圓
第二十四項 望樓費	金壹萬參千九百九拾五圓六拾錢九厘
第二十五項 備外國人諸給	金參千圓
海軍省所管合計金七百五拾九萬四千參百六拾六圓四拾錢壹厘	
司法省所管	
第一款 司法本省	
第一項 俸給及諸給	金九萬九千參百八拾七圓四拾五錢七厘
第二項 廳費	金五萬五千四百拾參圓
第三項 修繕費	金壹萬參千七百四拾六圓五錢貳厘
第四項 死傷手當	金千參百圓
第五項 賠償及訴訟費	金七圓
第六項 既約備外國人諸給	金五拾五圓
第七項 旅費	金壹萬五千參百貳拾圓
第八項 雜給及雜費	金九千八百五拾四圓五厘
第九項 判事檢事及辯護士試驗費	金千四百六拾貳圓四拾錢
第二款 裁判所	金參百參拾八萬貳千八百貳拾貳圓八拾錢七厘

第一項	俸給及諸給	金貳百貳拾參萬九千九百七圓七拾錢六厘
第二項	廳費	金參拾四萬四千四百貳拾參圓貳拾錢壹厘
第三項	修繕費	金五萬五千五百拾五圓七拾八錢壹厘
第四項	死傷手當	金貳拾六圓七拾五錢
第五項	裁判費	金拾參萬參千貳拾九圓六拾七錢五厘
第六項	登記用紙及公告費	金參萬參千貳百九拾八圓參拾八錢參厘
第七項	郵投所戶長役場登記所費定額	金四千參百拾四圓
第八項	賠償及訴訟費	金八百四拾六圓九錢九厘
第九項	旅費	金七萬八千四百參拾九圓七拾六錢五厘
第十項	雜給及雜費	金四拾九萬六千九百八拾壹圓四拾四錢七厘
第十一項	機密費	金四千四百四拾圓
司法部所管合計金參百四拾八萬貳千貳百拾圓貳拾六錢四厘		
文部省所管		
第一款	文部本省	金拾四萬五千九百五拾參圓九拾錢七厘
第一項	俸給及諸給	金六萬七千七百六拾九圓拾六錢六厘
第二項	廳費	金六千七百參拾圓九拾四錢八厘
第三項	修繕費	金貳千九百圓
第四項	死傷手當	金貳圓參拾四錢
第五項	賠償及訴訟費	金七圓
第六項	旅費	金四千七百八拾八圓九拾四錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬貳千六百壹圓拾九錢

第八項	編書費	金貳千貳百圓
第九項	學校衛生取調費	金參千圓
第十項	東京學士會院年金	金千五百圓
第十一項	學生費	金四萬九千七百八拾四圓五拾五錢六厘
第十二項	萬國測地學協會費	金六百六拾九圓七拾六錢七厘
第二款 震災豫防調査會		
第一項	俸給及諸給	金貳萬千六百參拾九圓貳拾壹錢五厘
第二項	廳費	金七百六拾貳圓
第三項	修繕費	金壹萬貳千六百拾七圓貳拾九錢
第四項	死傷手當	金六百九拾壹圓七拾錢七厘
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳千七百八拾五圓
第七項	雜給及雜費	金四千七百八拾圓貳拾壹錢八厘
第三款 中央氣象臺		
第一項	俸給及諸給	金貳萬參千五百五拾參圓參錢
第二項	廳費	金八千參百五拾壹圓
第三項	修繕費	金六千四百八拾八圓拾四錢
第四項	死傷手當	金貳百九拾貳圓四拾錢
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金七百六拾六圓九拾九錢
第八項	雜給及雜費	金參千六百圓

第八項 委託電報料

金四千五百拾壹圓五拾錢

第四款 諸學校及圖書館支出金

金九拾七萬五千八百四拾四圓參拾四錢

第一項 帝國大學

金四拾八萬六千參百六拾貳圓參拾五錢八厘

第二項 高等師範學校

金五萬千參百拾九圓六拾八錢貳厘

第三項 女子高等師範學校

金貳萬四千六百拾七圓七錢八厘

第四項 高等商業學校

金貳萬五千六百七拾七圓六拾八錢六厘

第五項 第一高等學校

金七萬參千六百貳拾參圓貳錢參厘

第六項 第二高等學校

金參萬九千六百壹圓貳拾貳錢貳厘

第七項 第三高等學校

金六萬參千七百貳拾貳圓參拾七錢貳厘

第八項 第四高等學校

金四萬四千四百參拾四圓五拾九錢八厘

第九項 第五高等學校

金四萬參千七百參拾壹圓參拾四錢貳厘

第十項 札幌農學校

金壹萬九千參百壹圓參拾九錢九厘

第十一項 東京工業學校

金四萬七千八百參拾壹圓參拾七錢六厘

第十二項 東京美術學校

金壹萬四千貳百拾五圓八拾參錢

第十三項 大阪工業學校

金壹萬四千六百貳拾六圓六拾六錢七厘

第十四項 東京盲啞學校

金九百七拾四圓貳拾壹錢七厘

第十五項 東京圖書館

金八千四拾五圓四拾九錢

第五款 府縣立師範學校長俸給

金參萬九千五百四拾貳圓

第一項 府縣立師範學校長俸給

金參萬九千五百四拾貳圓

第六款 實業教育獎勵費

金拾五萬圓

第一項 實業教育費補助

金拾參萬五千圓

第二項 實業教育養成費

金壹萬五千圓

文部省所管合計金百參拾五萬五千七百七拾貳圓四拾九錢貳厘

農商務省所管

金貳拾參萬七千七百七拾五圓

第一款 農商務本省

金拾五萬千七百參圓

第一項 俸給及諸給

金貳萬四千七百拾圓八拾四錢五厘

第二項 廳費

金貳千七百七拾六圓

第三項 修繕費

金貳千貳拾四圓九拾壹錢

第四項 萬國度量衡會費

金五拾五圓

第五項 死傷手當

金壹萬六千九拾五圓拾錢

第六項 賠償及訴訟費

金壹萬八千九拾八圓七拾四錢五厘

第七項 旅費

金六千七百八拾壹圓八拾錢

第八項 雜給及雜費

金貳千圓

第九項 度量衡原器費

金壹萬參千參百九圓六拾錢

第十項 製茶試驗費

金五拾六萬四千四百五拾八圓五拾八錢七厘

第十一項 地質調查及製圖費

金貳拾五萬貳千七百五拾壹圓參拾參錢貳厘

第二款 林區署

金四萬八千八百參拾圓五拾壹錢參厘

第一項 俸給及諸給

金貳千八百四拾五圓

第二項 廳費

金百圓

第三項 修繕費

金千六百圓

第四項 死傷手當

金千六百圓

第五項 賠償及訴訟費

金千六百圓

第六項	旅費	金七萬貳千九百九拾參圓七拾錢
第七項	雜給及雜費	金八千六百九拾九圓四拾六錢
第八項	造林及林產物處理費	金拾七萬四千參百參拾八圓五拾八錢貳厘
第三款 鑛山監督署		
第一項	俸給及諸給	金七萬五千五百八拾圓參拾錢
第二項	廳費	金參萬八千九百八拾圓
第三項	修繕費	金七千五百五拾圓
第四項	死傷手當	金拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金壹萬參千八百貳拾五圓
第六項	旅費	金六千八百四拾八圓參拾錢
第七項	雜給及雜費	金六萬四千四拾圓五拾七錢六厘
第四款 農事試驗場		
第一項	俸給及諸給	金貳萬八千四拾圓
第二項	廳費	金千參百參拾九圓參拾四錢
第三項	修繕費	金六百貳拾圓
第四項	死傷手當	金拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金五圓
第六項	旅費	金四千五百六拾圓五拾六錢
第七項	雜給及雜費	金貳千五百參拾七圓拾五錢
第八項	試驗費	金貳萬參千九百貳拾八圓五拾貳錢六厘
第五款	水產調查所	金參萬千八百貳拾圓

第一項	俸給及諸給	金七千參百六拾圓
第二項	廳費	金七百參拾五圓七拾錢
第三項	修繕費	金百圓
第四項	死傷手當	金五圓
第五項	賠償及訴訟費	金五圓
第六項	旅費	金參千貳百九拾九圓八拾七錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬貳千參百參拾七圓九拾七錢五厘
第八項	調查費	金七千九百七拾六圓四拾五錢五厘
第六款 蠶業講習所		
第一項	俸給及諸給	金壹萬四千八百七拾壹圓六拾錢
第二項	廳費	金四千六百四拾圓
第三項	修繕費	金八百九拾壹圓貳拾五錢
第四項	死傷手當	金參百圓
第五項	賠償及訴訟費	金貳圓五拾錢
第六項	旅費	金貳圓五拾錢
第七項	雜給及雜費	金六百圓
第八項	講習及試驗費	金五百參拾圓參拾五錢
第七款 生絲檢查所		
第一項	俸給及諸給	金六萬九百七拾參圓四拾四錢四厘
第二項	廳費	金八千貳百圓
第三項	修繕費	金千貳百參拾七圓八拾八錢壹厘
		金五百圓

第四項	死傷手當	金五圓
第五項	賠償及訴訟費	金五圓
第六項	旅費	金八百拾四圓八拾八錢
第七項	雜給及雜費	金七千八百拾貳圓四拾五錢
第八項	檢查費	金參萬五千參百九拾八圓貳拾參錢參厘
第九項	備外國人諸給	金七千圓
第八款	貿易品陳列館	金壹萬九千六百九拾貳圓八拾五錢
第一項	俸給及諸給	金參千七百六拾八圓
第二項	列品費	金壹萬圓
第三項	廳費	金千貳百七拾圓
第四項	修繕費	金千圓
第五項	死傷手當	金五百圓
第六項	旅費	金參千四百拾九圓八拾五錢
第七項	雜給及雜費	金五百圓
農商務省所管合計金百五萬八千六百拾貳圓參拾五錢七厘		
遞信省所管		
第一款	遞信本省	金拾九萬五千八拾壹圓貳拾六錢六厘
第一項	俸給及諸給	金拾貳萬貳百貳拾貳圓貳拾七錢八厘
第二項	廳費	金壹萬七千貳百五拾五圓九拾四錢
第三項	修繕費	金參千四百參拾七圓八拾參錢
第四項	死傷手當	金五拾貳圓

第五項	賠償及訴訟費	金五拾壹圓六拾九錢五厘
第六項	備外國人諸給	金五千六百六拾八圓
第七項	旅費	金貳萬貳百拾七圓八拾壹錢壹厘
第八項	雜給及雜費	金貳萬八千貳百七拾五圓七拾壹錢貳厘
第一款	遞信費	金七百六拾四萬九千貳百貳拾五圓拾八錢壹厘
第一項	俸給及諸給	金百五萬六百拾五圓四拾九錢九厘
第二項	廳費	金拾四萬貳千貳百六拾壹圓四拾貳錢參厘
第三項	修繕費	金參萬五百九拾四圓六拾壹錢貳厘
第四項	萬國郵便電信聯約費	金貳千四百貳圓六拾壹錢八厘
第五項	死傷手當	金六百九拾五圓五拾七錢壹厘
第六項	遞信事業費	金五百六萬九千參拾四圓八錢
第七項	賠償及訴訟費	金六百四拾圓九拾九錢貳厘
第八項	諸拂戻金	金百萬七千六百九拾貳圓九拾五錢
第九項	旅費	金拾壹萬九千貳百拾四圓五拾六錢
第十項	雜給及雜費	金貳拾貳萬五千九百七拾貳圓八拾七錢六厘
第三款	航路標識費	金拾五萬貳千五百參拾六圓拾七錢參厘
第一項	俸給及諸給	金六萬七千九百七拾九圓六拾六錢七厘
第二項	廳費	金貳千四百貳拾圓拾六錢
第三項	修繕費	金六百參拾圓
第四項	死傷手當	金四百九拾八圓八拾八錢五厘
第五項	航路標識事業費	金五萬四千五百四拾圓七拾參錢參厘

第六項 賠償及訴訟費	金五圓
第七項 旅費	金五千百拾圓五拾錢
第八項 雜給及雜費	金貳萬千參百五拾壹圓貳拾貳錢八厘
第四款 船舶海員費	金四萬六千百圓五拾參錢參厘
第一項 俸給及諸給	金參萬參千貳百七拾壹圓拾壹錢壹厘
第二項 廳費	金參千四百貳拾七圓七拾貳錢七厘
第三項 修繕費	金拾圓
第四項 死傷手當	金參圓
第五項 賠償及訴訟費	金四千六百六拾七圓七拾九錢
第六項 旅費	金四千參百參拾五圓七拾錢五厘
第七項 雜給及雜費	金五萬四千八百九拾壹圓六拾錢
第五款 商船學校	金壹萬九千百六拾圓
第一項 俸給及諸給	金五千五百九拾七圓八錢貳厘
第二項 廳費	金五百參拾壹圓貳拾八錢
第三項 修繕費	金六圓
第四項 死傷手當	金參圓
第五項 賠償及訴訟費	金八百六拾九圓四拾貳錢
第六項 旅費	金八千八百八拾壹圓參錢六厘
第七項 雜給及雜費	金壹萬九千八百四拾參圓七拾八錢貳厘
第八項 學生費	金貳萬千百拾四圓六錢八厘
第六款 東京郵便電信學校	

第一項 俸給及諸給	金八千貳拾八圓
第二項 廳費	金四千五百七拾八圓四拾參錢八厘
第三項 修繕費	金五百圓
第四項 死傷手當	金五圓
第五項 賠償及訴訟費	金參圓
第六項 旅費	金四百八拾八圓參拾壹錢
第七項 雜給及雜費	金四千貳百六拾壹圓四拾貳錢
第八項 學生費	金參千貳百四拾九圓九拾錢
遞信省所管合計金八百拾壹萬八千九百四拾八圓八拾貳錢壹厘	
歲出經常部合計金八千九百六萬貳千五百五拾六圓八錢六厘	
歲出臨時部	
外務省所管	
第一款 登錄費	金五萬九千八拾七圓五拾五錢六厘
第一項 在朝鮮國京城領事館新營費	金五萬六千八拾七圓五拾五錢六厘
第二款 新營費	金參千圓
第二款 電信符號調製費	金貳千圓
第一項 電信符號調製費	金貳千圓
外務省所管合計金六萬千八拾七圓五拾五錢六厘	
內務省所管	
第一款 補助費	金拾四萬六百參拾參圓貳拾六錢壹厘

第一項	沖繩縣先島航海費補助	金五千圓
第二項	北海道鐵道製糖株式會社補助	金貳千七百五拾圓
第三項	北海道炭礦鐵道株式會社補助	金拾萬六百八拾參圓貳拾六錢壹厘
第四項	東京府小笠原島航海費補助	金六千貳百圓
第五項	鹿兒島縣大島郡各離島航海費補助	金六千圓
第六項	沖繩縣各離島航海費補助	金參千圓
第七項	傳染病研究所費補助	金壹萬五千圓
第八項	北海道航海補助	金貳千圓
第二款	神社費補助	金貳千五百七拾貳圓
第一款	神社費補助	金貳千五百七拾貳圓
第三款	土木費補助	金參拾參萬五千七拾九圓
第一項	東京市水道費補助	金拾五萬圓
第二項	大阪市水道費補助	金六萬圓
第三項	神戸市水道費補助	金貳萬四千四百四拾五圓
第四項	函館區水道費補助	金壹萬參千六百參拾四圓
第五項	大阪府河港浚費補助	金貳萬貳千圓
第六項	熊本縣道路修築費補助	金百參拾四萬九千五百五拾壹圓九拾五錢
第七項	函館港修築費補助	金五萬貳百六拾六圓
第四款	土木事業費	金九千七百六拾八圓九拾九錢貳厘
第一項	俸給及諸給	
第二項	廳費	

第三項	死傷手當	金百九拾九圓
第四項	旅費	金參萬六千貳百八圓拾六錢
第五項	雜給及雜費	金參萬貳千七百八拾八圓四拾壹錢六厘
第六項	營繕費	金千八百九拾參圓八拾參錢參厘
第七項	調査費	金參萬參千八百八拾九圓五拾貳錢七厘
第八項	利根川修築費	金七萬五千圓
第九項	北上川修築費	金六萬圓
第十項	最上川修築費	金貳拾萬四千七百四拾參圓貳錢貳厘
第十一項	信濃川修築費	金七萬圓
第十二項	木曾川修築費	金五萬五千圓
第十三項	大井川修築費	金參拾萬圓
第十四項	阿武隈川修築費	金五萬圓
第十五項	信濃川河口修築費	金六萬圓
第十六項	富士川追加修築費	金千貳百五拾圓
第十七項	天龍川追加修築費	金參千八百貳拾五圓
第十八項	阿賀野川修築費	金貳千圓
第十九項	吉野川修築費	金參萬圓
第二十項	庄川修築費	金六千八百八拾圓
第二十一項	澁川修築工修繕及砂防費	金壹萬貳百圓
第二十二項	富士川修築工修繕費	
第二十三項	天龍川修築工修繕費	

第五款 府縣

- 第一項 災害地出張旅費 金貳萬參千參百貳拾圓
- 第二項 長崎縣民有地買上代 金貳千貳百圓
- 第六款 橫濱築港工事補充費 金壹萬參千貳百六拾七圓貳拾六錢貳厘
- 第一項 俸給及諸給 金貳千四百八拾七圓
- 第二項 廳費 金六百五拾八圓九拾錢
- 第三項 死傷手當 金六拾壹圓七拾五錢
- 第四項 賠償及訴訟費 金六拾七圓七拾五錢
- 第五項 旅費 金參拾圓六拾錢
- 第六項 雜給及雜費 金六千九百九拾六圓貳拾六錢
- 第七項 營繕費 金拾參圓五拾錢
- 第八項 工業費 金貳千九百五拾壹圓五拾錢貳厘
- 第七款 諸官衙及議院建築費 金壹萬參千九百四拾壹圓五拾錢
- 第一項 俸給及諸給 金九千九百九圓
- 第二項 廳費 金五百四拾七圓拾錢
- 第三項 死傷手當 金四拾圓
- 第四項 賠償及訴訟費 金貳圓
- 第五項 雜給及雜費 金參千四百四拾參圓四拾錢
- 第八款 營繕費 金九萬八千六百六拾七圓八錢六厘
- 第一項 東京集治監煉瓦塀建設費 金八千參百六拾五圓七拾八錢
- 第二項 神奈川縣吉濱橋改造費 金四萬八百參拾九圓六拾壹錢壹厘

第三項 新營費

- 第四項 修繕費 金四萬五千九百參拾貳圓五拾四錢五厘
- 第九款 北海道起業費 金貳千九百六拾八圓八拾五錢
- 第一項 道路橋梁排水堤防設置費 金貳拾八萬九千九百五拾九圓拾錢六厘
- 第二項 茨戶錢函間排水費 金貳拾壹萬八千四百四拾貳圓參拾四錢參厘
- 第三項 札幌茨戶間運河排水費 金參萬七千八百參拾九圓參拾九錢貳厘
- 第十款 北海道千島移民保護費 金參萬參千九百七拾七圓參拾七錢壹厘
- 第一項 北海道千島移民保護費 金九千圓
- 第十一款 北海道馬匹改良費 金壹萬貳千參拾參圓貳拾錢
- 第一項 北海道馬匹改良費 金壹萬貳千參拾參圓貳拾錢
- 第十二款 神戶港波止場增築費 金拾六萬四千四百六拾八圓六拾壹錢
- 第一項 神戶港波止場增築費 金拾六萬四千四百六拾八圓六拾壹錢
- 第十三款 血清製造所創設費 金貳萬四千四百七拾參圓
- 第一項 創設費 金貳萬四千四百七拾參圓
- 第十四款 痘苗製造所創設費 金貳萬百參拾貳圓
- 第一項 創設費 金貳萬百參拾貳圓
- 第十五款 北海道鐵道建設費 金九拾萬參千貳百圓四拾四錢九厘
- 第一項 空知太旭川間鐵道 金九拾萬參千貳百圓四拾四錢九厘
- 內務省所管合計金參百參拾九萬六千七百參拾八圓拾貳錢四厘
- 大藏省所管 金拾六萬九百圓
- 第一款 中央備荒儲蓄金補助 金拾六萬九百圓

第一款 中央備荒儲蓄金補助	金拾六萬九百圓
第二款 補助費	金五拾五萬百貳拾八圓五拾五錢
第一項 日本鐵道株式會社利益補助	金五拾貳萬八千百貳拾八圓五拾五錢
第二項 九州鐵道株式會社補助	金貳萬貳千圓
第三款 公債證書製造及發行費	金拾五萬參千五百六圓貳拾八錢貳厘
第一項 鐵道公債證書製造及發行費	金六千五百七拾五圓五拾參錢八厘
第二項 整理公債證書製造及發行費	金壹萬五千圓
第三項 軍事公債證書製造及發行費	金拾參萬四千四百八拾圓七拾四錢四厘
第四款 法典調查會	金貳萬九千貳百八拾圓
第一項 廳費	金千貳百拾五圓
第二項 修繕費	金九拾圓
第三項 雜給及雜費	金貳萬七千九百七拾五圓
第五款 營繕費	金拾萬四千貳百九拾圓參錢貳厘
第一項 新營費	金拾萬四千貳百九拾圓參錢貳厘
第二項 臨時軍事費會計檢査費	金壹萬四千八百五拾六圓參拾五錢
第三項 廳費	金壹萬貳千六百圓
第四項 雜給及雜費	金八百參拾六圓
第五項 陸軍省所管	金千四百貳拾圓參拾五錢
第六項 砲臺建築費	金貳百拾壹萬參千五百六拾八圓八拾錢參厘

第一款 砲臺建築費	金貳百拾壹萬參千五百六拾八圓八拾錢參厘
第一項 東京海砲臺建築費	金參拾萬參千圓
第二項 下ノ關砲臺建築費	金拾萬圓
第三項 紀淡海峽砲臺建築費	金四萬六千八拾貳圓
第四項 鳴門海峽砲臺建築費	金八萬千貳百八拾四圓
第五項 吳砲臺建築費	金拾四萬九千六百參拾八圓
第六項 藝豫海峽砲臺建築費	金四萬五千八百參拾參圓
第七項 佐世保砲臺建築費	金百貳拾八萬七千七百參拾壹圓六拾錢參厘
第八項 兵器彈藥費	金參拾貳萬六千八拾七圓參拾壹錢六厘
第二款 連發銃製造費	金四拾壹萬貳拾七圓七拾貳錢七厘
第一項 兵器彈藥費	金壹萬五千五百拾六圓
第二項 營繕費	金參萬八千四百拾圓
第三款 營繕費	金拾貳萬貳千參百貳拾參圓八拾九錢
第一項 相模海峽要塞砲兵營新營費	金貳拾參萬八千七百參拾七圓八拾參錢七厘
第二項 東京灣要塞砲兵營新營費	金貳拾參萬九百拾圓貳拾錢九厘
第三項 也田各兵隊本部及兵	金拾八萬參千九百拾圓貳拾錢九厘
第四項 屋附國家其他新營費	金千四百五拾九圓
第五項 新營費	金拾五萬七千四百五拾參圓七拾六錢九厘
第六項 廳費	金四百參圓六拾九錢
第七項 測量費	金貳千貳拾四圓七拾五錢
第八項 雜給及雜費	
第九項 俸給及諸給	
第十項 諸手當	
第十一項 測量費	
第十二項 廳費	
第十三項 雜給及雜費	

第五款 營繕及初度調辦費

第一項 營繕及初度調辦費

第六款 兵器製造費

第七款 砲兵工廠工場擴張費

第一項 東京砲兵工廠製造所擴張及新營費

第二項 大阪砲兵工廠製造所擴張及新營費

第三項 東京砲兵工廠器械購買費

第四項 大阪砲兵工廠器械購買費

第五項 臨時陸軍建築部費

第六項 陸軍省所管合計金千九百貳拾六萬千八百八拾圓九拾九錢

第七項 海軍省所管

第一項 軍艦製造費

第二項 二十六年年度起乘甲鐵艦製造費

金千貳百九拾四萬八千六百六拾四圓拾七錢四厘

金千貳百九拾四萬八千六百六拾四圓拾七錢四厘

金百五拾萬圓

金百六拾五萬四千七百參拾四圓七拾七錢六厘

金參拾七萬參千五百七拾參圓參拾參錢

金拾七萬五千六百七拾四圓

金四拾五萬六千參百九拾九圓五拾錢

金六拾四萬九千八拾七圓九拾四錢六厘

金拾貳萬四千八百八拾八圓八錢五厘

金八萬六千貳百四拾七圓

金貳千四百六拾九圓

金壹萬九千九拾六圓九拾五錢六厘

金九千貳百六圓六拾壹錢

金六千參百六拾八圓六拾壹錢九厘

金八百四拾五萬九百四拾圓參拾六錢貳厘

金六百拾四萬六千九百四拾八圓九拾八錢

金參拾萬參千九百九拾壹圓參拾八錢貳厘

第二款 土木費

第一項 吳鎮守府建築費

第二項 佐世保鎮守府建築費

第三項 兵器製造所建築費

第四項 新營費

第五項 修繕費

第六項 受託造修船費

第七項 火藥試驗費

第八項 下瀨火藥試驗費

第九項 泥浚船製造費

第十項 泥浚船製造費

第十一項 職工外國派遣費

第十二項 造兵職工外國派遣費

第十三項 水路測量費

第十四項 水路測量費

第十五項 海軍擴張費

第十六項 造船費

第十七項 造兵費

第十八項 建築費

金五拾壹萬八千七拾壹圓八拾九錢參厘

金貳拾四萬八千七拾壹圓八拾九錢參厘

金拾七萬圓

金八萬八千九百九拾九圓參拾參錢八厘

金七萬九千九百九拾九圓參拾參錢八厘

金九百六拾圓

金六萬四千七百圓

金六萬四千七百圓

金壹萬四千四百參拾八圓七拾參錢壹厘

金壹萬四千四百參拾八圓七拾參錢壹厘

金壹萬六千參百圓

金壹萬六千參百圓

金壹萬貳千四拾五圓

金壹萬貳千四拾五圓

金四萬六千六百七拾五圓八拾五錢

金四萬六千六百七拾五圓八拾五錢

金貳千貳百九拾九萬貳千七百九圓五拾錢壹厘

金貳千貳百九拾九萬貳千七百九圓五拾錢壹厘

金七百七拾四萬七千五百貳拾九圓拾貳錢

第七項 器械及工場費	金貳萬五千圓
第八項 備外國人諸給	金貳萬五千圓
第六款 營繕費	金貳萬八千八百八圓五拾八錢五厘
第一項 林區署新營費	金壹萬五百拾四圓五拾八錢五厘
第二項 農事試驗場分析室新營費	金參千參百六拾九圓
第三項 蠶業講習所新營費	金七千九百貳拾五圓
農商務省所管合計金七拾壹萬九千八百五圓七錢五厘	
遞信省所管	
第一款 補助費	金八拾九萬圓
第一項 日本郵船株式會社補助	金八拾八萬圓
第二款 營繕費	金壹萬圓
第一項 隱岐電信線新設費	金百八拾七萬九千四百七拾五圓八拾八錢九厘
第二項 國後擇捉電信線新設費	金拾參萬八千八百貳拾九圓六拾五錢
第三項 東京函館間電信線增設費	金拾參萬參千參百參拾貳圓九拾九錢八厘
第四項 札幌根室間電信線增設及新設費	金貳萬五拾七圓拾參錢壹厘
第五項 入道崎航路標識新設費	金貳萬四千五百九拾壹圓參錢四厘
第六項 經少岬航路標識新設費	金壹萬參千圓
第七項 地嶺崎航路標識新設費	金壹萬五千圓
第八項 阿吐江也岬航路標識新設費	金八千圓
第九項 豫備電信用品購買費	金拾萬貳千五百七拾五圓參拾五錢參厘

第十項 電信線架設費	金九拾七萬九千八百七拾五圓九拾參錢參厘
第十一項 航路標識設置費	金四萬參千八百九拾八圓拾六錢參厘
第十二項 新營費	金貳拾四萬千貳百七拾貳圓七錢五厘
第十三項 航路標識修繕費	金八千五百五拾圓
第十四項 修繕費	金八千六百六拾參圓四拾錢
第三款 臨時外國行諸費	金貳萬七千百拾七圓五拾貳錢
第一項 萬國聯合電信會議參會費	金壹萬貳千百拾七圓五拾貳錢
第二項 歐米諸國鐵道視察費	金壹萬五千圓
第四款 電話交換擴張費	金百六拾七萬七千九百六拾四圓九拾參錢
第一項 電話交換擴張費	金百六拾七萬七千九百六拾四圓九拾參錢
第五款 官設既成鐵道改良費	金四百五拾萬圓
第一項 官設既成鐵道改良費	金四百五拾萬圓
遞信省所管合計金八百九拾七萬四千五百五拾八圓參拾參錢九厘	
歲出臨時部合計金六千參百拾貳萬四千七百參拾圓八拾六錢七厘	
歲出總計金壹億五千貳百八拾八萬七千貳百八拾六圓九拾五錢參厘	
(別冊)	
乙號	
第一	
利根川修築費	
總額	

金四百七萬七千貳百拾五圓六拾五錢七厘

內

金八拾參萬千六百五拾圓八拾六錢六厘

金參百貳拾四萬五千五百六拾四圓七拾九錢壹厘

此改定年額左ノ如シ

明治二十九年度

金拾七萬六千參百四拾圓

金拾七萬六千參百四拾圓

明治三十年度

金貳拾九萬四千五百七拾六圓貳拾參錢九厘

金貳拾九萬四千五百七拾六圓貳拾參錢九厘

明治三十一年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十二年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十三年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十四年度

利根川修築費

明治二十八年度迄支出高

明治二十九年度以降支出高

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十五年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十六年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十七年度

金參拾七萬圓

金參拾七萬圓

明治三十八年度

金拾八萬四千六百四拾八圓五拾五錢貳厘

金拾八萬四千六百四拾八圓五拾五錢貳厘

第二

北上川修築費

總額

金八拾貳萬七千五百八拾壹圓四拾貳錢四厘

內

金四拾五萬五千七百五拾貳圓五拾八錢六厘

金參拾七萬千八百貳拾八圓八拾參錢八厘

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

款 土木事業費

項 利根川修築費

北上川修築費

明治二十八年度迄支出高

明治二十九年度以降支出高

明治三十五年度

金六萬四百六拾參圓七拾九錢四厘

金六萬四百六拾參圓七拾九錢四厘

第四

信濃川修築費

總額

金百六拾五萬六千參拾七圓貳拾六錢八厘

內

金百貳拾參萬參千六百六圓七錢壹厘

金四拾貳萬貳千九百參拾壹圓拾九錢七厘

此改定年額左ノ如シ

明治二十九年年度

金八萬圓

金八萬圓

明治三十年度

金八萬圓

金八萬圓

明治三十一年度

金八萬圓

明治三十二年度

款 土木事業費

項 最上川修築費

信濃川修築費

明治二十八年年度迄支出高

明治二十九年年度以降支出高

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

金八萬圓

金八萬圓

明治三十三年度

金六萬貳千九百參拾壹圓拾九錢七厘

金六萬貳千九百參拾壹圓拾九錢七厘

明治三十四年度

金壹萬圓

金壹萬圓

明治三十五年度

金壹萬圓

金壹萬圓

明治三十六年度

金壹萬圓

金壹萬圓

明治三十七年度

金壹萬圓

第五

大井川修築費

總額

金參拾貳萬五千七拾八圓五錢九厘

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

項 信濃川修築費

款 土木事業費

金參拾貳萬五千七拾八圓五錢九厘

年額

明治二十九年度

金七萬圓

金七萬圓

明治三十年度

金七萬圓

金七萬圓

明治三十一年度

金七萬圓

金七萬圓

明治三十二年度

金七萬圓

金七萬圓

明治三十三年度

金四萬五千七拾八圓五錢九厘

金四萬五千七拾八圓五錢九厘

第六

阿武隈川修築費

總額

金參拾貳萬九百五圓參拾四錢九厘

項 大井川修築費

款 土木事業費

項 大井川修築費

款 土木事業費

項 大井川修築費

款 土木事業費

項 大井川修築費

款 土木事業費

項 大井川修築費

款 土木事業費

項 大井川修築費

款 土木事業費

金參拾貳萬九百五圓參拾四錢九厘

年額

明治二十九年度

金五萬五千圓

金五萬五千圓

明治三十年度

金五萬五千圓

金五萬五千圓

明治三十一年度

金五萬五千圓

金五萬五千圓

明治三十二年度

金五萬五千圓

金五萬五千圓

明治三十三年度

金五萬五千圓

金四萬五千九百五圓參拾四錢九厘

金四萬五千九百五圓參拾四錢九厘

第七

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

款 土木事業費

項 阿武隈川修築費

信濃川河口修築費

總額

金九拾參萬六千四百五拾四圓貳拾七錢七厘

金九拾參萬六千四百五拾四圓貳拾七錢七厘

年額

明治二十九年 度

金參拾萬圓

明治三十年 度

金貳拾萬圓

明治三十一年 度

金貳拾萬圓

明治三十二年 度

金貳拾萬圓

明治三十三年 度

金貳拾萬圓

金貳拾萬圓

金參萬六千四百五拾四圓貳拾七錢七厘

金參萬六千四百五拾四圓貳拾七錢七厘

第八

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

款 土木事業費
項 信濃川河口修築費

富士川追加修築費

總額

金八萬四千八百五拾四圓

金八萬四千八百五拾四圓

年額

明治二十九年 度

金五萬圓

明治三十年 度

金參萬四千八百五拾四圓

金參萬四千八百五拾四圓

第九

天龍川追加修築費

總額

金拾壹萬八千六百八拾壹圓

金拾壹萬八千六百八拾壹圓

年額

明治二十九年 度

金六萬圓

明治三十年 度

款 土木事業費
項 富士川追加修築費

款 土木事業費
項 富士川追加修築費

款 土木事業費
項 富士川追加修築費

款 土木事業費
項 天龍川追加修築費

款 土木事業費
項 天龍川追加修築費

金五萬八千六百八拾壹圓
金五萬八千六百八拾壹圓

第十

北海道千島移民保護費

總額

金貳萬八千圓

年額

明治二十九年
度

金九千圓

明治三十年
度

金九千五百圓

明治三十一年
度

金九千五百圓

明治三十一年
度

金九千五百圓

第十一

空知太旭川間鐵道

總額

金百拾七萬八千參百參拾壹圓

款 土木事業費

項 天龍川追加修築費

款 北海道千島移民保護費

項 北海道千島移民保護費

款 北海道千島移民保護費

項 北海道千島移民保護費

款 北海道千島移民保護費

項 北海道千島移民保護費

款 北海道千島移民保護費

項 北海道千島移民保護費

款 北海道鐵道建設費

金百拾七萬八千參百參拾壹圓

年額

明治二十九年
度

金九拾萬參千貳百圓四拾四錢九厘

金九拾萬參千貳百圓四拾四錢九厘

明治三十年
度

金貳拾七萬五千參拾圓五拾五錢壹厘

金貳拾七萬五千參拾圓五拾五錢壹厘

第十二

鳴門海峽砲臺建築費

總額

金六拾八萬六千九百八拾壹圓貳拾八錢

金六拾八萬六千九百八拾壹圓貳拾八錢

年額

明治二十九年
度

金四萬六千八拾貳圓

金四萬六千八拾貳圓

明治三十年
度

金九萬五千六百六拾參圓

金九萬五千六百六拾參圓

明治三十一年
度

項 空知太旭川間鐵道

款 北海道鐵道建設費

項 空知太旭川間鐵道

款 北海道鐵道建設費

項 空知太旭川間鐵道

款 砲臺建築費

項 鳴門海峽砲臺建築費

款 砲臺建築費

項 鳴門海峽砲臺建築費

款 砲臺建築費

項 鳴門海峽砲臺建築費

金拾萬七千八百四拾參圓
金拾萬七千八百四拾參圓

明治三十二年度

款砲臺建築費
項 鳴門海峽砲臺建築費

金拾四萬五千八百八拾四圓
金拾四萬五千八百八拾四圓

明治三十二年度

款砲臺建築費
項 鳴門海峽砲臺建築費

金拾四萬五千八百八拾四圓
金拾四萬五千八百八拾四圓

明治三十四年度

款砲臺建築費
項 鳴門海峽砲臺建築費

金拾四萬六千六百貳拾五圓貳拾八錢
金拾四萬六千六百貳拾五圓貳拾八錢

第十三

款砲臺建築費
項 鳴門海峽砲臺建築費

吳砲臺建築費

總額

金百貳拾參萬七千四百七拾壹圓四拾九錢貳厘
金百貳拾參萬七千四百七拾壹圓四拾九錢貳厘

年額

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

明治二十九年年度

金八萬千貳百八拾四圓
金八萬千貳百八拾四圓

明治三十年度

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

金九萬千五百九拾八圓
金九萬千五百九拾八圓

明治三十一年度

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

金拾八萬六千八百拾貳圓
金拾八萬六千八百拾貳圓

明治三十二年度

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

金貳拾九萬貳千五百五拾四圓
金貳拾九萬貳千五百五拾四圓

明治三十三年度

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

金貳拾九萬貳千五百五拾四圓
金貳拾九萬貳千五百五拾四圓

明治三十四年度

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

金貳拾九萬貳千六百六拾九圓四拾九錢貳厘
金貳拾九萬貳千六百六拾九圓四拾九錢貳厘

第十四

款砲臺建築費
項 吳砲臺建築費

藝豫海峽砲臺建築費

總額

金貳百萬九千參拾參圓拾貳錢五厘
金貳百萬九千參拾參圓拾貳錢五厘

年額

款砲臺建築費
項 藝豫海峽砲臺建築費

明治二十九年年度

金拾四萬九千六百參拾八圓	款 砲臺建築費
金拾四萬九千六百參拾八圓	項 藝琛海峽砲臺建築費
明治三十年度	
金貳拾七萬六千六百四拾四圓	款 砲臺建築費
金貳拾七萬六千六百四拾四圓	項 藝琛海峽砲臺建築費
明治三十一年度	
金參拾壹萬參千貳百五拾參圓	款 砲臺建築費
金參拾壹萬參千貳百五拾參圓	項 藝琛海峽砲臺建築費
明治三十二年度	
金四拾貳萬參千六百拾九圓	款 砲臺建築費
金四拾貳萬參千六百拾九圓	項 藝琛海峽砲臺建築費
明治三十三年度	
金四拾貳萬參千六百拾九圓	款 砲臺建築費
金四拾貳萬參千六百拾九圓	項 藝琛海峽砲臺建築費
明治三十四年度	
金四拾貳萬參千六百拾圓拾貳錢五厘	款 砲臺建築費
金四拾貳萬參千六百拾圓拾貳錢五厘	項 藝琛海峽砲臺建築費
第十五	
佐世保砲臺建築費	款 砲臺建築費
總額	項 藝琛海峽砲臺建築費
金八拾八萬參百拾九圓參拾五錢五厘	款 砲臺建築費

金八拾八萬參百拾九圓參拾五錢五厘	項 佐世保砲臺建築費
年額	
明治二十九年度	
金四萬五千八百參拾參圓	款 砲臺建築費
金四萬五千八百參拾參圓	項 佐世保砲臺建築費
明治三十年度	
金八萬七千四百參拾九圓	款 砲臺建築費
金八萬七千四百參拾九圓	項 佐世保砲臺建築費
明治三十一年度	
金拾四萬七千八百四拾四圓	款 砲臺建築費
金拾四萬七千八百四拾四圓	項 佐世保砲臺建築費
明治三十二年度	
金拾九萬九千七百六拾壹圓	款 砲臺建築費
金拾九萬九千七百六拾壹圓	項 佐世保砲臺建築費
明治三十三年度	
金拾九萬九千七百六拾壹圓	款 砲臺建築費
金拾九萬九千七百六拾壹圓	項 佐世保砲臺建築費
明治三十四年度	
金拾九萬九千六百八拾壹圓參拾五錢五厘	款 砲臺建築費
金拾九萬九千六百八拾壹圓參拾五錢五厘	項 佐世保砲臺建築費
第十六	

兵器彈藥費

總額

金九百貳拾五萬八千八百八拾八圓六拾四錢參厘

金九百貳拾五萬八千八百八拾八圓六拾四錢參厘

年額

明治二十九年度

金六拾九萬九千七百貳拾八圓貳錢

金六拾九萬九千七百貳拾八圓貳錢

明治三十年度

金百七拾壹萬貳千圓

金百七拾壹萬貳千圓

明治三十一年度

金百七拾壹萬貳千圓

金百七拾壹萬貳千圓

明治三十二年度

金百七拾壹萬貳千圓

金百七拾壹萬貳千圓

明治三十三年度

金百七拾壹萬貳千圓

金百七拾壹萬貳千圓

明治三十四年度

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

營繕及初度調辦費

總額

金千七百參拾參萬四千八百九拾圓九拾貳錢六厘

金千七百參拾參萬四千八百九拾圓九拾貳錢六厘

年額

明治二十九年度

金千貳百九拾四萬八千六百六拾四圓拾七錢四厘

金千貳百九拾四萬八千六百六拾四圓拾七錢四厘

明治三十年度

金貳百七拾參萬四千四百貳拾九圓六拾錢參厘

金貳百七拾參萬四千四百貳拾九圓六拾錢參厘

明治三十一年度

金百四拾壹萬千參百八拾貳圓八拾錢九厘

金百四拾壹萬千參百八拾貳圓八拾錢九厘

明治三十二年度

金貳拾四萬四百拾四圓參拾四錢

金貳拾四萬四百拾四圓參拾四錢

第十八

款 砲臺建築費
項 兵器彈藥費

款 營繕及初度調辦費
項 營繕及初度調辦費

款 營繕及初度調辦費
項 營繕及初度調辦費

款 營繕及初度調辦費
項 營繕及初度調辦費

款 營繕及初度調辦費
項 營繕及初度調辦費

款 營繕及初度調辦費
項 營繕及初度調辦費

兵器製造費

總額

金八百四拾八萬六千七百六拾六圓六拾錢七厘

金八百四拾八萬六千七百六拾六圓六拾錢七厘

年額

明治二十九年度

金百五拾萬圓

明治三十年度

金貳百參拾貳萬九千圓

金貳百參拾貳萬九千圓

明治三十一年度

金貳百參拾貳萬九千圓

金貳百參拾貳萬九千圓

明治三十二年度

金貳百參拾貳萬八千七百六拾六圓六拾錢七厘

金貳百參拾貳萬八千七百六拾六圓六拾錢七厘

第十九

砲兵工廠工場擴張費

總額

金貳百九拾四萬九千七百七拾四錢壹厘

款 砲兵工廠工場擴張費

金五拾壹萬五千參百五拾七圓六厘
金參拾壹萬參千五百四拾圓五拾錢
金八拾九萬七百八拾七圓參錢
金百貳拾貳萬九千四百貳拾參圓貳拾錢五厘

年額

明治二十九年度

金百六拾五萬四千七百參拾四圓七拾七錢六厘

金參拾七萬參千五百七拾參圓參拾參錢

金拾七萬五千六百七拾四圓

金四拾五萬六千參百九拾九圓五拾錢

金六拾四萬九千八拾七圓九拾四錢六厘

明治三十年度

金百貳拾九萬四千參百七拾貳圓九拾六錢五厘

金拾四萬千七百八拾參圓六拾七錢六厘

金拾參萬七千八百六拾六圓五拾錢

金四拾參萬四千參百八拾七圓五拾參錢

金五拾八萬參百參拾五圓貳拾五錢九厘

第二十

水路測量費

東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費

款

東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費

款

東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費
東砲兵工廠工場擴張費

總額

金貳拾七萬參千八百九圓參拾壹錢七厘

年額

明治二十九年度

金四萬六千六百七拾五圓八拾五錢

明治三十年度

金參萬七千七百四拾四圓貳拾七錢六厘

明治三十一年度

金參萬九千九百九拾四圓參拾壹錢四厘

明治三十二年度

金參萬貳百拾六圓拾壹錢五厘

明治三十三年度

金貳萬九千貳百六圓六拾壹錢五厘

明治三十四年度

金參萬八千八百七拾貳圓六拾壹錢四厘

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

金參萬八千八百七拾貳圓六拾壹錢四厘

明治三十五年度

金壹萬九千貳拾八圓四拾九錢八厘

明治三十六年度

金貳萬貳千四拾七圓五拾參錢六厘

明治三十七年度

金九千九百貳拾參圓四拾九錢九厘

第二十一

金九千九百貳拾參圓四拾九錢九厘

海軍擴張費

金九千四百七拾七萬六千貳百四拾五圓八拾四錢七厘

金四千七百七拾五萬四千五百七拾六圓拾六錢

金參千參百七拾五萬五千六百六拾貳圓八拾錢

金千參百八拾七萬五百六圓八拾八錢七厘

年額

明治二十九年度

金貳千貳百拾九萬貳千七百九圓五拾錢壹厘

金千貳百七拾四萬九千四百六拾七圓貳拾貳錢

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 水路測量費

項 水路測量費

款 海軍擴張費

項 造船費

項 造兵費

項 建築費

款 海軍擴張費

項 造船費

金七百七拾四萬七千五百貳拾九圓拾貳錢
金百六拾九萬五千七百拾參圓拾六錢壹厘

明治三十年度

金參千六百八拾六萬四千拾七圓七拾七錢五厘

金貳千拾八萬九千九百四拾八圓六拾七錢

金千貳百八拾九萬貳百七拾九圓拾錢

金參百七拾八萬參千七百九拾圓五厘

明治三十一年度

金貳千貳百拾參萬五千四百五圓四拾貳錢壹厘

金千參拾五萬九千九百拾圓五拾七錢

金八百九拾貳萬參百五拾六圓六拾錢

金貳百八拾五萬五千九百參拾八圓貳拾五錢壹厘

明治三十二年度

金七百八拾七萬貳百參拾八圓九拾五錢五厘

金貳百參萬七千四百參拾壹圓六拾六錢

金參百六拾參萬八千五百五拾五圓九拾八錢

金貳百拾九萬四千六百五拾壹圓參拾壹錢五厘

明治三十三年度

金貳百八拾六萬貳千四百四拾九圓九拾七錢五厘

金八拾壹萬六千五百九圓參拾貳錢

金五拾四萬九千八百四拾貳圓

項 造 兵 費
項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 造 兵 費

項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 造 兵 費

項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 造 兵 費

項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 造 兵 費

項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 造 兵 費

項 建 築 費

款 海軍 擴張 費

項 造 船 費

項 建 築 費

帝國大學醫科大學醫院內科外科等教室及病室改築費

總額

金四拾六萬參千五百拾八圓

金四拾六萬參千五百拾八圓

年額

明治二十九年度

金參萬圓

金參萬圓

款 營 繕 費

項 帝 國 大 學 醫 科 大 學 院 內 科 外 科 等 教 室 及 病 室 改 築 費

款 營 繕 費

項 帝 國 大 學 醫 科 大 學 院 內 科 外 科 等 教 室 及 病 室 改 築 費

明治三十年度
金參萬圓

金參萬圓

明治三十一年度
金參萬圓

金參萬圓

明治三十二年度
金參萬圓

金參萬圓

明治三十三年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

明治三十四年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

明治三十五年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

金五萬七千貳百五拾參圓

明治三十六年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

明治三十七年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

明治三十八年度
金五萬七千貳百五拾參圓

金五萬七千貳百五拾參圓

第二十三

第三高等學校應用化學及探鑛冶金學實驗場新營費

金四萬四百六拾貳圓五拾錢

金四萬四百六拾貳圓五拾錢

明治二十九年年度
金貳萬圓

金貳萬圓

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 帝國大學醫科及病室改築費

款營 繕 費

項 第三高等學校應用化學及探鑛冶金學實驗場新營費

款營 繕 費

款營 繕 費

金貳萬圓
 明治三十年度
 金貳萬四百六拾貳圓五拾錢
 第二十四
 京都帝國大學創立費
 總額

項 第三高等學校
 實驗場新營治金應用
 款 營 繕 費
 項 第三高等學校
 實驗場新營治金應用

金貳拾萬圓
 金拾八萬圓
 金貳萬圓
 年額

款 京都帝國大學創立費
 項 新 營 費
 項 機械器具新調費

明治二十九年
 金貳萬圓
 金九萬圓
 金八萬圓
 金壹萬圓
 明治三十一年度
 金九萬圓

款 京都帝國大學創立費
 項 新 營 費
 項 機械器具新調費
 款 京都帝國大學創立費

金八萬圓
 金壹萬圓
 第二十五

項 新 營 費
 項 機械器具新調費

製鐵所創立費

總額
 金四百九萬五千七百九拾參圓四拾錢
 金拾八萬參千貳百圓
 金貳萬四千四百八拾四圓
 金貳千圓
 金五萬五千八百四拾九圓四拾錢
 金四萬六千六百圓
 金九拾六萬參千圓
 金貳百貳拾六萬六千圓
 金拾五萬八千圓
 金參拾九萬六千五百六拾圓
 年額

款 製鐵所創立費
 項 俸給及諸給
 項 廳 費
 項 死 傷 手 當
 項 旅 費
 項 雜給及雜費
 項 建築及土工費
 項 器械及工場費
 項 備外國人諸給
 項 鋼材試製費

明治二十九年
 金五拾七萬九千七百六拾貳圓貳錢
 金四萬五千八百圓
 金壹萬五千百九圓
 金五百圓

款 製鐵所創立費
 項 俸給及諸給
 項 廳 費
 項 死 傷 手 當

金參萬千六百參圓貳錢
金壹萬五千貳百五拾圓
金四拾貳萬千五百圓
金貳萬五千圓
金貳萬五千圓

明治三十年度

金百七拾四萬千六百貳拾壹圓參拾八錢
金四萬五千八百圓
金參千貳拾五圓
金五百圓
金壹萬九千七百四拾六圓參拾八錢
金壹萬四百五拾圓
金貳拾八萬圓
金百參拾五萬七千圓
金貳萬四千圓
明治三十一年度
金百拾八萬九千四百拾五圓
金四萬五千八百圓
金參千貳拾五圓
金五百圓
金貳千五百圓

項 旅
項 雜給及雜費
項 建築及土工費
項 器械及工場費
項 備外國人諸給

款 製鐵所創立費

項 俸給及諸給
項 應
項 死傷手當
項 旅
項 雜給及雜費
項 建築及土工費
項 器械及工場費
項 備外國人諸給
款 製鐵所創立費
項 俸給及諸給
項 應
項 死傷手當
項 旅

金壹萬四百五拾圓
金貳拾壹萬五百圓
金七拾五萬四千圓
金五萬四千圓
金拾萬八千四百四拾圓

明治三十三年度

金五拾八萬四千九百九拾五圓
金四萬五千八百圓
金參千貳拾五圓
金五百圓
金貳千圓
金壹萬四百五拾圓
金五萬圓
金拾參萬圓
金五萬五千圓
金貳拾八萬八千貳拾圓
第二十六

隱岐電信線新設費

總額

金拾六萬參百貳拾五圓參拾貳錢九厘
金拾六萬參百貳拾五圓參拾貳錢九厘

項 雜給及雜費
項 建築及土工費
項 器械及工場費
項 備外國人諸給
項 鋼材試製費

款 製鐵所創立費

項 俸給及諸給
項 應
項 死傷手當
項 旅
項 雜給及雜費
項 建築及土工費
項 器械及工場費
項 備外國人諸給
項 鋼材試製費

款 營 繕 費
項 隱岐電信線新設費

年額

明治二十九年度

金拾參萬八千八百貳拾九圓六拾五錢

金拾參萬八千八百貳拾九圓六拾五錢

明治三十年度

金貳萬四千四百九拾五圓六拾七錢九厘

金貳萬四千四百九拾五圓六拾七錢九厘

第二十七

國後擇捉電信線新設費

總額

金貳拾貳萬七千七百九拾八圓九拾六錢四厘

金貳拾貳萬七千七百九拾八圓九拾六錢四厘

年額

明治二十九年度

金拾四萬貳千七百參拾圓九拾九錢八厘

金拾四萬貳千七百參拾圓九拾九錢八厘

明治三十年度

金七萬九千九百六拾七圓九拾六錢六厘

金七萬九千九百六拾七圓九拾六錢六厘

第二十八

東京函館間電信線增設費

總額

金拾五萬四千七百六拾參圓五拾九錢八厘

金拾五萬四千七百六拾參圓五拾九錢八厘

年額

明治二十九年度

金拾參萬參千參百參拾貳圓拾五錢貳厘

金拾參萬參千參百參拾貳圓拾五錢貳厘

明治三十年度

金貳萬四千四百參拾壹圓四拾四錢六厘

金貳萬四千四百參拾壹圓四拾四錢六厘

第二十九

札幌根室間電信線增設及新設費

總額

金參萬五千四百四拾七圓八拾八錢五厘

金參萬五千四百四拾七圓八拾八錢五厘

年額

明治二十九年度

金貳萬五拾七圓拾參錢壹厘

金貳萬五拾七圓拾參錢壹厘

明治三十年度

金壹萬五千參百九拾圓七拾五錢四厘

款營 續 費

項 信東 續 費

款營 續 費

項 信東 續 費

款營 續 費

項 信東 續 費

款營 續 費

項 信東 續 費

款營 續 費

項 信東 續 費

款營 續 費

金壹萬五千參百九拾圓七拾五錢四厘

入道崎航路標識新設費

第三十

總額

金五萬九千五百參拾九圓四拾五錢

年額

明治二十九年度

金貳萬四千五百九拾壹圓參錢四厘

明治三十年度

金參萬千參百四拾六圓七錢

明治三十一年度

金參千六百貳圓參拾四錢六厘

第三十一

經ヶ岬航路標識新設費

總額

金五萬六千七百拾六圓六拾壹錢壹厘

金五萬六千七百拾六圓六拾壹錢壹厘

項 札帳 棧室 間電 信 線 増 設 及 新 設 費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 經ヶ岬航路標識新設費

年額

明治二十九年度

金壹萬參千圓

明治三十年度

金參萬六千七百拾參錢參厘

明治三十一年度

金壹萬參千九圓四拾七錢八厘

第三十二

地藏崎航路標識新設費

總額

金五萬千六百八拾參圓拾七錢

金五萬千六百八拾參圓拾七錢

年額

明治二十九年度

金壹萬五千圓

明治三十年度

金貳萬參千四百五拾九圓六拾參錢四厘

項 經ヶ岬航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 入道崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 經ヶ岬航路標識新設費

款 營 繕 費

項 經ヶ岬航路標識新設費

款 營 繕 費

項 經ヶ岬航路標識新設費

款 營 繕 費

項 經ヶ岬航路標識新設費

款 營 繕 費

項 地藏崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 地藏崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 地藏崎航路標識新設費

金貳萬參千四百五拾九圓六拾參錢四厘

明治三十一年度

金壹萬參千貳百貳拾參圓五拾參錢六厘

金壹萬參千貳百貳拾參圓五拾參錢六厘

第三十三

阿吐江也岬航路標識新設費

總額

金四萬八千圓

年額

明治二十九年

金八千圓

年額

明治三十年度

金貳萬七千九百九拾九圓八拾八錢

金貳萬七千九百九拾九圓八拾八錢

明治三十一年度

金壹萬貳千圓拾貳錢

金壹萬貳千圓拾貳錢

第三十四

歐米諸國鐵道視察費

項 地蔵崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 地蔵崎航路標識新設費

款 營 繕 費

項 阿吐江也新設航

款 營 繕 費

項 阿吐江也新設航

款 營 繕 費

項 阿吐江也新設航

款 營 繕 費

項 阿吐江也新設航

總額

金參萬圓

年額

明治二十九年

金壹萬五千圓

金壹萬五千圓

明治三十年度

金壹萬五千圓

第三十五

電話交換擴張費

總額

金千貳百八拾萬貳千六百七拾參錢壹厘

金千貳百八拾萬貳千六百七拾參錢壹厘

年額

明治二十九年

金百六拾七萬七千九百六拾四圓九拾參錢

金百六拾七萬七千九百六拾四圓九拾參錢

明治三十年度

金貳百貳萬六千貳百九拾八圓八拾七錢六厘

金貳百貳萬六千貳百九拾八圓八拾七錢六厘

款 臨時外國行諸費

項 歐米諸國鐵道視察費

款 臨時外國行諸費

項 歐米諸國鐵道視察費

款 臨時外國行諸費

項 歐米諸國鐵道視察費

款 臨時外國行諸費

項 歐米諸國鐵道視察費

款 電話交換擴張費

項 電話交換擴張費

款 電話交換擴張費

項 電話交換擴張費

款 電話交換擴張費

項 電話交換擴張費

款 電話交換擴張費

項 電話交換擴張費

金貳百貳萬六千貳百九拾八圓八拾七錢六厘	項 電話交換擴張費
明治三十一年度	
金百九拾七萬千九百拾五圓拾壹錢貳厘	款 電話交換擴張費
金百九拾七萬千九百拾五圓拾壹錢貳厘	項 電話交換擴張費
明治三十二年度	
金百九拾壹萬五千參拾貳圓四拾貳錢參厘	款 電話交換擴張費
金百九拾壹萬五千參拾貳圓四拾貳錢參厘	項 電話交換擴張費
明治三十三年度	
金貳百壹萬九千四拾參圓九拾六錢八厘	款 電話交換擴張費
金貳百壹萬九千四拾參圓九拾六錢八厘	項 電話交換擴張費
明治三十四年度	
金百六拾七萬七千貳百六拾九圓四拾貳錢九厘	款 電話交換擴張費
金百六拾七萬七千貳百六拾九圓四拾貳錢九厘	項 電話交換擴張費
明治三十五年度	
金百五拾壹萬四千五百八拾壹圓九拾九錢參厘	款 電話交換擴張費
金百五拾壹萬四千五百八拾壹圓九拾九錢參厘	項 電話交換擴張費
第三十六	
官設既成鐵道改良費	
總額	
金貳千六百五拾五萬參千圓	款 官設既成鐵道改良費
金貳千六百五拾五萬參千圓	項 官設既成鐵道改良費

年額	
明治二十九年年度	
金四百五拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金四百五拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治二十年年度	
金參百六拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百六拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治三十一年年度	
金參百六拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百六拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治三十二年年度	
金參百六拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百六拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治三十三年度	
金參百六拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百六拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治三十四年度	
金參百八拾萬圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百八拾萬圓	項 官設既成鐵道改良費
明治三十五年度	
金參百八拾五萬參千圓	款 官設既成鐵道改良費
金參百八拾五萬參千圓	項 官設既成鐵道改良費